2025年度

教職実践高度化専攻
（専門職学位課程）
ガ イ ド ブ ッ ク

高知大学大学院総合人間自然科学研究科

目　　次

2025 年度行事予定・・・

2025年度行事予定

4月2日（水）	オリエンテーション・現職教員受入式
4月3日（木）	入学式
4月14日（月）	第1学期授業始
4月11日（金）	指導教員届提出期限（1年次）
4月15日（火）	実習オリエンテーション（1年次）
4月21日（月）	履修登録票提出期限・秋季修了希望申請書提出期限
4月30日（水）	火曜日の授業
5月1日（木）	実習Ⅱ期間開始
6月1日（日）	実習Ⅰ期間開始
7月24日（木）	月曜日の授業
8月1日（金）～8月7日（木）	第1学期末試験
8月8日（金）～8月31日（日）	夏季休業（8/12～15夏季一斉休業）
8月19日（火）	公開ゼミ「土佐の皿鉢ゼミ」（第15回）
9月1日（月）～9月30日（火）	特別授業（集中講義）期間
9月19日（金）	秋季修了式
10月1日（水）	創立記念日
10月2日（木）	第2学期授業始
10月14日（火）	履修登録修正期限
10月29日（水）	月曜日の授業
11月6日（木）	月曜日の授業
11月25日（火）	月曜日の授業
12月31日（水）	実習Ⅰ・実習Ⅱ期間終了
12月25日（木）～1月4日（日）	冬季休業
1月16日（金）	休講（大学入学共通テスト準備）
2月2日（月）～2月6日（金）	第2学期末試験
2月11日（水）	公開ゼミ「土佐の皿鉢ゼミ」（第16回）
2月7日（土）～2月28日（土）	特別授業（集中講義）期間
3月23日（月）	修了式
3月1日（日）～3月31日（火）	学年末休業

令和7（2025）年度　実習・教育実践研究に関する行事予定

<table>
<tr><th colspan="2">時期</th><th colspan="2">1年次</th><th colspan="2">2年次</th></tr>
<tr><td>4月</td><td>4月2日（水）</td><td colspan="2">オリエンテーション</td><td colspan="2">オリエンテーション</td></tr>
<tr><td></td><td>4月15日（火）</td><td rowspan="4">（通年）
教育
実践
研究Ⅰ</td><td rowspan="2">実習オリエンテーション
＜実習先事前訪問＞</td><td>＜実習先事前訪問＞</td><td rowspan="4">（通年）
教育
実践
研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>5月</td><td></td><td rowspan="3">（通年）実習Ⅱ
５～12月（30日間）</td></tr>
<tr><td>6月</td><td></td><td rowspan="2">（通年）実習Ⅰ
６～12月（20日間）</td></tr>
<tr><td>7月</td><td></td></tr>
<tr><td>8月</td><td></td><td colspan="4">土佐の皿鉢ゼミ（令和7年度　1回目）</td></tr>
<tr><td>9月</td><td>8月19日（火）</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>10月</td><td></td></tr>
<tr><td>11月</td><td></td></tr>
<tr><td>12月</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1月</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2月</td><td>2月11日（水）</td><td colspan="4">土佐の皿鉢ゼミ（令和7年度　2回目）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

総合実践力科目、実習科目書類提出日程

（総合実践力科目の様式は「履修ガイドブック」に、実習科目の様式は「実習の手引き」に掲載）

※以下の書類の提出先：教職大学院係（主指導教員へ提出するもの以外）

提出期限（以下の期限日の17：00まで）

1年次
- 4月11日（金）実習申請書（1・2枚目）、指導教員届
- 5月23日（金）実習Ⅰ実習計画書
- 5月23日（金）**教育実践研究（1年次）Ⅰ計画書**
- 1月13日（火）実習Ⅰ実習記録、実習Ⅰ出勤簿
- 1月30日（金）2年次実習申請書（2枚目）
- 2月6日（金）**教育実践研究Ⅰ省察記録 ※主指導教員へ→教職大学院係**

2年次
- 4月22日（火）実習Ⅱ実習計画書
- 4月22日（火）**教育実践研究（2年次）Ⅱ計画書**
- 1月13日（火）実習Ⅱ実習記録、実習Ⅱ出勤簿
- 2月6日（金）**教育実践研究Ⅱ省察記録※主指導教員へ→教職大学院係**
- 2月6日（金）**研究成果報告書※主指導教員へ→教職大学院係**

※以下の書類は、2部作成し、実習先及び学生サービスセンターに提出

事前提出
（事前が無理な場合は、事後速やかに提出）

（欠席・遅刻・早退の場合のみ）
実習欠席・遅刻・早退承認願

※事前提出が無理な場合、実習先及び学生サービスセンターに電話連絡する。

Ⅰ．教職実践高度化専攻の概要

１　本専攻の概要

本専攻の目的は，常に高知県の学校教育の現場を念頭に置き，学校教育に関わる理論と実践の融合によって，学校教育が直面する諸課題の構造的・総合的な理解に立って学校教育運営をマネジメントし，実践できる中核的中堅教員と，授業力の向上や学級経営等の充実を目指して組織的な授業改善をリードできる中核教員，また，特別支援教育に関する指導・支援の充実を図り，組織的な体制を構築することのできる中核教員を養成することにあります。

２　各コースの概要

（1）学校マネジメントコース（現職教員・学部卒生）

学校の教育活動を効果的にマネジメントして組織改革を実行することができ,また,不登校などの生徒指導上の諸課題にも組織的に対応できる学校・学級経営を推進しリードできる人材を育成します。

（2）授業実践コース（現職教員・学部卒生）

教科等の学習指導などの教育実践の高度化を図って全ての子どもたちに質の高い学びを保証することができ,また,授業実践に関する研究を組織しリードできる人材を育成します。

（3）特別支援教育コース（現職教員・学部卒生）

個別の障害像に即した実態把握に基づき個別の指導計画を立案し,それを実践して適切な教育評価により指導の効果を検証することができ,また,特別支援教育に関する組織的な推進体制を構築できる人材を育成します。

3 専任教員の研究内容

(1)研究者教員

教員名	職名	専門分野	研究内容
中野俊幸	教授	教科教育学，数学教育学，授業研究	教科授業論，特に算数・数学学習指導法，数学教材開発
藤田詠司	教授	社会科教育学	社会科教育学，特に社会科内容構成論，ドイツ政治教育史
中城　満	教授	理科教育学	理科指導法，理科教材開発
松本秀彦	教授	特別支援教育	特別支援教育，発達障害者支援，学習困難児者に対する学習支援
岩城裕之	教授	国語学，国語教育学	日本語方言の語彙，社会言語学，ことばに注目した国語科教育
柳林信彦	教授	学校経営学，教育行政学	アメリカ教育改革政策に関する研究，地方教育行政機構に関する研究
是永かな子	教授	特別支援教育	北欧における特別ニーズ教育システムと実践についての研究
野村幸代	教授	教育方法学・英語教育学	授業プロセスと発話の検討に関する研究
古口高志	教授	教育臨床心理学	ストレスと心身の健康との関連，心身症への認知行動療法
横山　卓	教授	教育社会学	子どもの発達社会学，地域社会と教育，青少年の逸脱行動
秀真一郎	准教授	幼児教育・保育	保育実践研究，保育者支援
福住紀明	准教授	発達心理学	学校心理学と教育相談
加納理成	准教授	解析学	偏微分方程式
三ツ石行宏	准教授	福祉教育・教育福祉	福祉教育論、教育福祉論
矢田敦之	講師	数学教育学	算数・数学教育の実践研究，　ICT活用授業に関する研究
末永琢也	講師	教育方法学，社会科教育学	授業デザイン研究（生活科，社会科，道徳科），市民性育成に関わる研究
袴田綾斗	講師	数学教育学	数学の指導・学習に関する知識，教師教育
柴田里彩	講師	教育行政学	教育行政学，特に高校教育に関わる法制と経営，地方創生政策と地方教育行政の連関

（2）実務家教員

教員名	職名	専門分野	研究内容
藤中雄輔	特任教授	学校経営学	学校経営マネジメント及び地方教育行政機構に関する研究
大西雅人	教授	人権教育・生徒指導	人権教育・生徒指導に関する研究
森　有希	教授	道徳教育	道徳教育及び道徳科の指導と評価に関する研究
小田　通	准教授	理科教育	理科教育に関する研究
平石勝久	准教授	特別支援教育	特別支援教育における学校組織マネジメント及び指導と評価に関する研究
田中元康	教授	授業実践・小学校教育	小学校の授業実践に関する研究，国語科，複式学級の指導法
三好　文	教授	国語教育	国語教育に関する研究
竹﨑優子	准教授	外国語教育	小学校外国語活動・外国語，中学校及び高等学校の外国語の授業の指導と評価に関する研究
松村智明	准教授	生徒指導・人権教育	生徒指導・人権教育に関する研究
二宮　啓	講師	特別支援教育	特別支援教育の指導と評価，障害支援や生徒指導及び進路指導に関する実践的研究
小川裕代	講師	特別支援教育	特別支援教育（小学部）の指導と評価，地域支援に関する実践的研究

Ⅱ. 教職実践高度化専攻の教育課程等

1. 修学の方法等

（1）授業時間

教職実践高度化専攻の授業時間は，原則として第1時限から第6時限までとし，月曜日から金曜日に行います。授業時間は，第1学期，第2学期を通して次のとおりです。

第1時限	8時50分	～	10時20分
第2時限	10時30分	～	12時00分
第3時限	13時10分	～	14時40分
第4時限	14時50分	～	16時20分
第5時限	16時30分	～	18時00分
第6時限	18時10分	～	19時40分

（2）修学の形態

教職実践高度化専攻の標準修業年限は2年です。2年間は，大学院での学業及び研究に専念しなければなりません。

（3）長期履修制度

長期履修制度は，主に職業を有している等の理由により，標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することができる制度です。長期履修学生の時間割等履修計画については，学生本人が指導教員及び授業担当教員等と相談のうえ決めることになります。

履修期間の終期より少なくとも6カ月以上前（期間短縮については希望短縮の終期よりも6カ月以上前）が申請期限となりますので，希望者は早めに窓口に相談してください。

（4）大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例について

教職実践高度化専攻では，現職教員及び社会人に対して「大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例措置」を実施しません。

2. 修了要件及び学位

本専攻では，大学院修了時に修士論文は課しません。総合実践研究において「研究成果報告書」を作成し，「土佐の皿鉢ゼミ」で発表することにしています。

本専攻に2年以上在学し，以下に示す修了要件単位を46単位以上修得することを修了要件としています。本専攻修了者には，教職修士（専門職）の学位を授与します。

課程修了要件単位（最低修得単位数）

区　　分	学校マネジメントコース	授業実践コース	特別支援教育コース
共通科目	20 単位（５つの領域から各４単位以上修得すること）		
専門科目	8 単位（コースに関する科目を修得すること）		
総合実践力科目	8 単位（コースに関する科目を修得すること）		
実習科目	10 単位（コース・対象に関する実習Ⅰ・Ⅱを修得すること）		
合　　計	46	46	46

3. 履修方法等

（1）履修登録

所定の手続きを行った上でないと，授業を受けても単位が認定されません。所定の手続きは，次のとおりです。

○　履修登録票の提出

各学期の履修授業科目を決め，指導教員の承認を得て 4 月 21 日（月）までに学生サービスセンター学務課教育学部教務係に提出し，登録結果は証明書自動発行装置で確認してください。

集中講義等で追加訂正がある場合は，学生サービスセンター学務課教育学部教務係にファイルしてありますので，随時訂正してください。

（2）履修科目の登録上限

履修単位の上限は 1 学期 22 単位（年間 44 単位）です。

（3）定期試験等について

「授業科目を履修した者に対しては，試験又は研究報告に基づき，所定の単位を与える。」（高知大学学則第 68 条）となっています。定期試験は，学期ごとに行います。時期は，行事予定を参照してください。

① 定期試験は，各科目についてその年度の担当教員が有資格者に対して行う。
② 有資格は，履修登録した科目で原則として開講時数の2／3以上出席した者に与える。
③ 各科目の定期試験実施日程は，1週間前までに発表する。
④ 試験において不正行為があった場合には，研究科委員会の議を経て処置する。

（4）追試験について

定期試験の追試験は，次の要領で行います。

① 定期試験当日不時の災害，病気，二親等以内の親族又は同居家族の死亡，その他止むを得ない事情があり，受験できなかった者については，願出により，特定の科目について追試験を行うことがある。
② 上記の願出は，定期試験終了後1週間以内に願書及びその事由を証明する書類を学生サービスセンター学務課教育学部教務係に提出すること。
③ 追試験は，原則として定期試験終了後1ヶ月以内に行うものとする。ただし，第2学期末試験については，この限りでない。

（5）成績評価

授業科目の成績は，原則として，学期毎の試験・レポート等により，100 点満点で評価され，60 点以上が合格となり単位が与えられます。成績評価基準は以下の表のとおりです。成績評価の方法は，授業科目によって異なりますので，シラバスの「成績評価の方法」で確認してください。

成績評価基準

合否	評語	評点	基準
合格	秀	90 点～100 点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し，標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
	優	80 点～89 点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し，標準的に達成している水準を上回る成績
	良	70 点～79 点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し，所定の課題について活用していると判定でき，標準的に達成している水準程度の成績

	可	60 点～69 点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不合格	不可	59 点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず，単位修得にふさわしくないと判定できる成績

（6）成績の通知

試験の結果は，各学期終了後の早い時期に学業成績通知書として証明書自動発行装置で交付します。交付の時期は掲示します。

（7）成績異議申し立て制度

高知大学では，成績に関する異議申し立て制度を設けており，取り扱いは各専攻等によって異なります。

教職実践高度化専攻開講科目については，原則として成績公表後5日以内に，成績評価に関して不服がある場合，またはシラバスや授業等を通じて周知された到達目標や評価基準から逸脱した成績判定であると思われる場合には，指定の様式を提出して異議を申し立てることができます。

該当する場合には，学生サービスセンター学務課教育学部教務係まで問い合わせてください。

4. 指導教員について

1 年生の4月の当初に，ガイダンスや面談を通して，研究や修学などを指導する指導教員を決定します。学生 1 人につき指導教員は3名からなり，そのうち1名が主指導教員，2名が副指導教員となります。実習の実地指導も，原則として主指導教員と副指導教員が担当します。なお，実習の方法・内容等については，別冊「実習の手引き」に示されています。

5. 学生生活について

（1）各種証明書の発行

在学証明書，成績証明書，修了見込証明書，修了証明書，学位授与証明書などは，学生サービスセンター（学務課：共通教育棟1号館2階）で発行します。学生証を持参してください。

（2） 掲示板

専攻（コースではない）としての掲示は，共通教育棟2号館前の掲示板（大学院コーナー）に掲示しますので注意してください。

（3） 学生証の携帯

学生証は，必ず携帯してください。事務の窓口や試験などで提示を求められることがあります。

6. 秋季（9月）修了について

2年以上在学し，所定の授業科目を履修してその単位を修得し，専攻等の定める修了の資格を得た場合，本人の申請により，秋季（9月）修了が認められることがあります。

秋季（9月）修了を希望する者は，4月に学生サービスセンター学務課教育学部教務係まで申し出てください。申請期間及び申請条件等については，掲示でお知らせします。

7. 取得できる免許状の種類

教職実践高度化専攻において取得できる専修免許状は，次のとおりです。ただし，専修免許状の所要資格を得ようとする場合は，取得しようとする専修免許状（中学校及び高等学校教諭の専修免許状については，その教科）の一種免許状取得資格を有し，対象となる授業科目から 24 単位を修得することが必要です。

また，専修免許状の種類・教科により，教科又は教職に関する科目の対象外となる授業科目もありますので注意してください。どの授業科目が対象となるかは，授業科目表にて確認してください。

取得できる免許状の種類・教科等	
幼稚園教諭専修免許状	
小学校教諭専修免許状	
中学校教諭専修免許状	国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・保健・技術・家庭・職業・職業指導・英語・宗教
高等学校教諭専修免許状	国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・工芸・書道・保健体育・保健・看護・家庭・情報・農業・工業・商業・水産・福祉・商船・職業指導・英語・宗教
特別支援学校教諭専修免許状	知的障害者・肢体不自由者・病弱者

科目ナンバリング・コード

授業科目のレベルや科目相互の関連性を示すために適切な番号を付して分類したものを「科目ナンバリング」といいます。履修登録時等にカリキュラムを体系的に理解し，学習の段階や順序を把握する手段として活用してください。

	【区分A】			【区分B】					【区分C】	
科目ナンバリング・コード：	学部等	学科等	―	レベル	大分類	中分類	小分類	―	授業形態	言語

【区分A】

学部等	コード	学科等	コード
人文社会科学部	1	人文社会科学科プラットフォーム科目	0
		人文社会科学科人文科学コース専門科目	1
		人文社会科学科国際社会コース専門科目	2
		人文社会科学科社会科学コース専門科目	3
教育学部	2	教職共通科目群	1
		小学校免許科目群	2
		中等学校免許科目群	3
		幼稚園保育士免許科目群	4
		特別支援学校免許科目群	5
		教職実践科目群	6
		研究	7
理工学部	3	数学物理学科（数学コース）	1
		数学物理学科（物理科学コース）	2
		情報科学科	3
		生物科学科	4
		化学生命理工学科	5
		地球環境防災学科	6
医学部	4	医学科	1
		看護学科	2
農林海洋科学部	5	農林資源科学科－フィールド科学コース	1
		農林資源科学科－農芸化学コース	2
		海洋資源科学科－海洋生物生産学コース	3
		海洋資源科学科－海底資源環境学コース	4
		海洋資源科学科－海洋生命科学コース	5
地域協働学部	6	地域協働学科	1
土佐さきがけプログラム	7	グリーンサイエンス人材育成コース	1
		国際人材育成コース	2
		生命・環境人材育成コース	3
		スポーツ人材育成コース	4
共通教育・全学開講	0	初年次科目	1
		教養科目	2
		日本語・日本事情に関する科目	3
		導入科目群	4
		教養科目群	5
		資格教育等	9
総合人間自然科学研究科（修士課程）	8	人文社会科学専攻	1
		理学専攻・理工学専攻	3
		医科学専攻	4
		看護学専攻	5
		農林海洋科学専攻	6
		地域協働学専攻	8
		スポーツ・芸術文化共創専攻	9
		土佐さきがけプログラムグリーンサイエンス人材育成コース	7
総合人間自然科学研究科（専門職学位課程）	A	教職実践高度化専攻	1
総合人間自然科学研究科（博士課程）	9	応用自然科学専攻	1
		医学専攻	2
		黒潮圏総合科学専攻	3

【区分B】　※次ページ参照

レ ベ ル		コード	大分類	コード	中分類	コード	小分類	コード
		0						

【区分C】

授業形態	コード
講義（学部）（院-開放科目）	1
演習（学部）（院-開放科目）	2
実験（学部）（院-開放科目）	3
実習（学部）（院-開放科目）	4
実技（学部）（院-開放科目）	5
講義（院-非開放科目）	6
演習（院-非開放科目）	7
実験（院-非開放科目）	8
実習（院-非開放科目）	9
実技（院-非開放科目）	0

言 語	コード
日本語	1
英語	2
日本語及び英語	3
英語以外の外国語	4
その他（例：日本語とドイツ語）	5

教職実践高度化専攻ナンバリングコード一覧

A1−7＊＊＊−＊＊

【区分A】

学部等：総合人間自然科学研究科（専門職学位課程）	コード：A
学科等：教職実践高度化専攻	コード：1

【区分B−1】

	レベル	コード
教育共通	初年次科目、教養科目、リメディアル	0
	共通専門科目（基礎科目、キャリア形成支援科目）	1
専門教育	概論、方法論	2
	特論、特講、各論	3
	卒業論文・研究	4
大学院	大学院（修士）科目	5
	大学院（専門職）科目	7
	大学院（博士）科目	6

大分類	コード
学校マネジメントコース	5
授業実践コース	6
特別支援教育コース	7
コース共通	8

中分類	コード
共通科目（教育課程の編成・実施に関する領域）	0
共通科目（教科等の実践的な指導方法に関する領域）	1
共通科目（生徒指導及び教育相談に関する領域）	2
共通科目（学級経営及び学校経営に関する領域）	3
共通科目（学校教育と教員の在り方に関する領域）	4
専門科目（1）	5
専門科目（2）	6
専門科目（3）	7
総合実践力科目	8
実習科目	9

小分類	コード
各授業科目	0～9

Ⅲ. 教職実践高度化専攻授業科目表

学校マネジメントコース

科目区分		授業コード	ナンバリングコード	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 選択必修区分	担当教員	開講学期	取得できる免許状 幼	取得できる免許状 小	取得できる免許状 中	取得できる免許状 高	取得できる免許状 特支	備考
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	13001	A1-7801-61	開かれた教育課程の開発と実践	1	2			小田・柴田	2	○	○	○	○		
		13002	A1-7802-61	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	1	2			是永・平石	1	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	13003	A1-7811-61	アクティブラーニングの理論と実践	1	2			中野・野村・末永	1	○	○	○	○		
		13004	A1-7812-61	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践	2	2			岩城・中野・加納・中城・矢田・野中	1	○	○	○	○		
	生徒指導及び教育相談に関する領域	13005	A1-7821-61	変動する社会と生徒指導の理論と実践	1	2			大西・福住・横山	1		○	○	○		
		13006	A1-7822-61	教育相談の理論と実践	2	2			古口・福住・三ツ石・大西	1	○	○	○	○		
	学級経営及び学校経営に関する領域	13007	A1-7831-61	学校組織マネジメントの理論と実践	1	2			柳林・平石・藤中	1	○	○	○	○		
		13008	A1-7832-61	学級経営の理論と実践	1	2			大西・柴・野中	2	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	13009	A1-7841-61	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	1	2			藤中・森・松本・秀	2	○	○	○	○		1年次必修
		13010	A1-7842-61	教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	1	2			柳林・袴田・柴	1	○	○	○	○		1年次必修
専門科目	学校マネジメントコース	13101	A1-7551-61	学校管理職の役割と実践	1		2	うち8単位以上	柳林・藤中	1	○	○	○	○		
		13102	A1-7552-61	学校組織開発の理論と実践	1		2		木岡	1	○	○	○	○		集中
		13103	A1-7553-61	保幼小中高の連携によるキャリア発達	1		2		秀・柴田・大西・岡谷	2	○	○	○	○		
		13104	A1-7554-61	学校に求められるリスクマネジメント	1		2		柳林・柴田	2	○	○	○	○		
		13105	A1-7555-61	学校組織開発のための学校評価	1		2		木岡	2	○	○	○	○		集中
		13106	A1-7556-61	学級経営の開発的実践	1		2			1	○	○	○	○		本年度休講
		13107	A1-7557-61	組織的な生徒指導と人権教育	2		2		大西･松村	1		○	○	○		
		13108	A1-7558-61	高知県の地域教育リソース開発	2		2		藤中・横山・三ツ石・平石	1	○	○	○	○		
		13109	A1-7559-71	学校組織開発演習	2		2		木岡	2	○	○	○	○		集中
総合実践力科目	学校マネジメントコース	表1参照	A1-7581-71	教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	1	2			中野・藤田・岩城・柳林・野村・古口・中城・横山・加納・福住・三ツ石・袴田・矢田・柴田・藤中・大西・森・小田・末永・秀・田中	通年	○	○	○	○		集中
		表1参照	A1-7582-71	教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	2	4				通年	○	○	○	○		集中
		表1参照	A1-7583-71	総合実践研究（学校マネジメント）	2	2				2						集中
実習科目	学校マネジメントコース	13121	A1-7591-91	学校マネジメント実習Ⅰ（学部卒用）	1	4		学部卒院生必修科目	中野・藤田・岩城・柳林・野村・古口・中城・横山・加納・福住・三ツ石・袴田・矢田・柴田・藤中・大西・森・小田・末永・秀・田中・三好・松村・竹﨑	通年						集中
		13122	A1-7592-91	学校マネジメント実習Ⅱ（学部卒用）	2	6				通年						集中
		13123	A1-7593-91	学校マネジメント実習Ⅰ（現職教員用）	1	4		現職教員院生必修科目		通年						集中
		13124	A1-7594-91	学校マネジメント実習Ⅱ（現職教員用）	2	6				通年						集中
最低修得単位数　計						38	8									

授業実践コース

科目区分		授業コード	ナンバリングコード	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 選択必修区分	担当教員	開講学期	取得できる免許状 幼	取得できる免許状 小	取得できる免許状 中	取得できる免許状 高	取得できる免許状 特支	備考
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	13001	A1-7801-61	開かれた教育課程の開発と実践	1	2			小田・柴田	2	○	○	○	○		
		13002	A1-7802-61	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	1	2			是永・平石	1	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	13003	A1-7811-61	アクティブラーニングの理論と実践	1	2			中野・野村・末永	1	○	○	○	○		
		13004	A1-7812-61	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践	2	2			岩城・中野・加納・中城・矢田・野中	1	○	○	○	○		
	生徒指導及び教育相談に関する領域	13005	A1-7821-61	変動する社会と生徒指導の理論と実践	1	2			大西・福住・横山	1		○	○	○		
		13006	A1-7822-61	教育相談の理論と実践	2	2			古口・福住・三ツ石・大西	1	○	○	○	○		
	学級経営及び学校経営に関する領域	13007	A1-7831-61	学校組織マネジメントの理論と実践	1	2			柳林・平石・藤中	1	○	○	○	○		
		13008	A1-7832-61	学級経営の理論と実践	1	2			大西・柴・野中	2	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	13009	A1-7841-61	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	1	2			松本・秀・森・藤中	2	○	○	○	○		1年次必修
		13010	A1-7842-61	教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	1	2			柳林・袴田・柴	1	○	○	○	○		1年次必修
専門科目	授業実践コース	13301	A1-7650-61	道徳教育の理論と実践	1		2	うち8単位以上	森・岡谷	1		○	○			
		13302	A1-7651-61	就学前からの発達と教育実践	1		2		古口・秀・三ツ石	2	○	○	○	○		
		13303	A1-7652-61	教育評価から捉える子どもの心理と理解	1		2		古口・横山・福住・野中	1	○	○	○	○		
		13304	A1-7653-61	授業におけるICT活用の開発的実践	1		2		岩城・中野・野村・末永・加納・矢田	1	○	○	○	○		
		13305	A1-7654-61	高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発	2		2		末永・藤中	1						
		13306	A1-7655-61	国語科学習指導法の理論と実践	1		2		岩城・田中・三好	1						
		13307	A1-7656-61	国語科教材研究・開発の理論と実践	1		2		岩城・田中・三好	2						
		13308	A1-7657-61	国語科教育マネジメントの理論と実践	2		2		岩城・田中・三好	1						
		13309	A1-7658-71	国語科授業分析・改善演習	2		2		岩城・田中・三好	2						
		13310	A1-7659-61	社会科学習指導法の理論と実践	1		2		末永・藤田・武田	1						
		13311	A1-7660-61	社会科教材研究・開発の理論と実践	1		2		末永・藤田・武田	2						
		13312	A1-7661-61	社会科教育マネジメントの理論と実践	2		2		末永・藤田・武田	1						
		13313	A1-7662-71	社会科授業分析・改善演習	2		2		末永・藤田・武田	2						
		13314	A1-7663-61	算数・数学科の学習指導の理論と実践	1		2		中野・矢田・袴田	1						
		13315	A1-7664-61	算数・数学科の教材研究の理論と実践	1		2		加納・佐藤・山口	2						
		13316	A1-7665-61	算数・数学科の教材開発と授業デザインの理論と実践	2		2		中野・加納・矢田・袴田・佐藤・山口	1						
		13317	A1-7666-71	算数・数学科の授業研究と授業改善演習	2		2		中野・加納・矢田・袴田・佐藤・山口	2						

科目区分		授業コード	ナンバリングコード	授業科目	授業年次	単位数			担当教員	開講学期	取得できる免許状					備考
						必修	選択	選択必修区分			幼	小	中	高	特支	
		13318	A1-7667-61	理科学習指導法の理論と実践	1		2		小田・中城・草場	1						
		13319	A1-7668-61	理科教材研究・開発の理論と実践	1		2		小田・中城・赤松・伊谷・原田・西脇・佐藤	2						
		13320	A1-7669-61	理科教育マネジメントの理論と実践	2		2		小田・中城	1						
		13321	A1-7670-71	理科授業分析・改善演習	2		2		小田・中城	2						
		13322	A1-7671-61	英語科学習指導法の理論と実践	1		2		野村・竹﨑	1						
		13323	A1-7672-61	英語科教材研究・開発の理論と実践	1		2		野村・竹﨑	2						
		13324	A1-7673-61	英語科教育マネジメントの理論と実践	2		2		野村・竹﨑	1						
		13325	A1-7674-71	英語科授業分析・改善演習	2		2		野村・竹﨑	2						
総合実践力科目	授業実践コース	表2参照	A1-7681-71	教育実践研究Ⅰ（授業実践）	1	2			中野・藤田・岩城・柳林・野村・古口・中城・横山・加納・福住・三ツ石・袴田・矢田・柴田・藤中・大西・森・小田・末永・秀・田中	通年	○	○	○	○		集中
		表2参照	A1-7682-71	教育実践研究Ⅱ（授業実践）	2	4				通年	○	○	○	○		集中
		表2参照	A1-7683-71	総合実践研究（授業実践）	2	2				2						集中
実習科目	授業実践コース	13331	A1-7691-91	授業実践実習Ⅰ（学部卒用）	1	4		学部卒院生必修科目	中野・藤田・岩城・柳林・野村・古口・中城・横山・加納・福住・三ツ石・袴田・矢田・柴田・藤中・大西・森・小田・末永・秀・田中・三好・松村・竹﨑	通年						集中
		13332	A1-7692-91	授業実践実習Ⅱ（学部卒用）	2	6				通年						集中
		13333	A1-7693-91	授業実践実習Ⅰ（現職教員用）	1	4		現職教員院生必修科目		通年						集中
		13334	A1-7694-91	授業実践実習Ⅱ（現職教員用）	2	6				通年						集中
最低修得単位数　計						38	8									

特別支援教育コース

科目区分		授業コード	ナンバリングコード	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 選択必修区分	担当教員	開講学期	取得できる免許状 幼	取得できる免許状 小	取得できる免許状 中	取得できる免許状 高	取得できる免許状 特支	備考
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	13001	A1-7801-61	開かれた教育課程の開発と実践	1	2			小田・柴田	2	○	○	○	○		
		13002	A1-7802-61	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	1	2			是永・平石	1	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	13003	A1-7811-61	アクティブラーニングの理論と実践	1	2			中野・野村・末永	1	○	○	○	○		
		13004	A1-7812-61	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践	2	2			岩城・中野・加納・中城・矢田・野中	1	○	○	○	○		
	生徒指導及び教育相談に関する領域	13005	A1-7821-61	変動する社会と生徒指導の理論と実践	1	2			大西・福住・横山	1		○	○	○		
		13006	A1-7822-61	教育相談の理論と実践	2	2			古口・福住・三ツ石・大西	1	○	○	○	○		
	学級経営及び学校経営に関する領域	13007	A1-7831-61	学校組織マネジメントの理論と実践	1	2			柳林・平石・藤中	1	○	○	○	○		
		13008	A1-7832-61	学級経営の理論と実践	1	2			大西・柴・野中	2	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	13009	A1-7841-61	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	1	2			松本・秀・森・藤中	2	○	○	○	○		1年次必修
		13010	A1-7842-61	教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	1	2			柳林・袴田・柴	1	○	○	○	○		1年次必修
専門科目	特別支援教育コース	13601	A1-7751-61	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	1		2	うち8単位以上	是永	2					○	
		13602	A1-7752-61	限局性学習症評価の基礎と実際	1		2		松本	1					○	
		13603	A1-7753-61	限局性学習症指導の理論と実践	1		2		松本	2	○	○	○	○		
		13604	A1-7754-61	注意欠如多動症評価の基礎と実際	1		2		松本	1					○	
		13605	A1-7755-61	注意欠如多動症指導の理論と実践	1		2		松本	2	○	○	○	○		
		13606	A1-7756-61	知的障害指導の理論と実践	2		2		二宮・宮田	2					○	集中
		13607	A1-7757-61	肢体不自由評価の基礎と実際	1		2		是永・平石	1					○	
		13608	A1-7758-61	病弱評価の基礎と実際	2		2		是永	1					○	集中
		13609	A1-7759-61	高知県の特別支援教育の実態把握と分析	2		2		是永・平石	1					○	
総合実践力科目	特別支援教育コース	表3参照	A1-7781-71	教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	1	2			是永・松本・平石・二宮・小川	通年					○	集中
		表3参照	A1-7782-71	教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	2	4				通年					○	集中
		表3参照	A1-7783-71	総合実践研究（特別支援教育）	2	2				2					○	集中
実習科目	特別支援教育コース	13621	A1-7791-91	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	1	4		学部卒院生必修科目		通年					○	集中
		13622	A1-7792-91	特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	2	6				通年					○	集中
		13623	A1-7793-91	特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	1	4		現職教員院生必修科目		通年					○	集中
		13624	A1-7794-91	特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	2	6				通年					○	集中
最低修得単位数　計						38	8									

表1（学校マネジメントコース）

授業科目名	中野俊幸	藤田詠司	岩城裕之	柳林信彦	野村幸代	古口高志	中城　満	横山　卓	加納理成	福住紀明	三ツ石行宏	袴田綾斗
教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	13131	13132	13133	13134	13135	13136	13137	13138	13139	13142	13143	13144
教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	13161	13162	13163	13164	13165	13166	13167	13168	13169	13172	13173	13174
総合実践研究（学校マネジメント）	13191	13192	13193	13194	13195	13196	13197	13198	13199	13202	13203	13204
授業科目名	矢田敦之	柴田里彩	藤中雄輔	大西雅人	森　有希	小田　通	田中元康	末永琢也	秀真一郎			
教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	13145	13146	13147	13148	13149	13150	13151	13152	13153			
教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	13175	13176	13177	13178	13179	13180	13181	13182	13183			
総合実践研究（学校マネジメント）	13205	13206	13207	13208	13209	13210	13211	13212	13213			

表2（授業実践コース）

授業科目名	中野俊幸	藤田詠司	岩城裕之	柳林信彦	野村幸代	古口高志	中城　満	横山　卓	加納理成	福住紀明	三ツ石行宏	袴田綾斗
教育実践研究Ⅰ（授業実践）	13341	13342	13343	13344	13345	13346	13347	13348	13349	13352	13353	13354
教育実践研究Ⅱ（授業実践）	13371	13372	13373	13374	13375	13376	13377	13378	13379	13382	13383	13384
総合実践研究（授業実践）	13401	13402	13403	13404	13405	13406	13407	13408	13409	13412	13413	13414
授業科目名	矢田敦之	柴田里彩	藤中雄輔	大西雅人	森　有希	小田　通	田中元康	末永琢也	秀真一郎			
教育実践研究Ⅰ（授業実践）	13355	13356	13357	13358	13359	13360	13361	13362	13363			
教育実践研究Ⅱ（授業実践）	13385	13386	13387	13388	13389	13390	13391	13392	13393			
総合実践研究（授業実践）	13415	13416	13417	13418	13419	13420	13421	13422	13423			

表3（特別支援教育コース）

授業科目名	是永かな子	松本秀彦	平石勝久	二宮啓	小川裕代
教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	13631	13632	13633	13634	13635
教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	13641	13642	13643	13644	13645
総合実践研究（特別支援教育）	13651	13652	13653	13654	13655

Ⅳ. 教職実践高度化専攻授業科目の概要

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	開かれた教育課程の開発と実践	「社会に開かれた教育課程」が求められる社会的背景を踏まえ、高知県における教育課題である「探究的な授業づくりのための教育課程の実践」に向けて、学校種間のつながりや教科横断的な教育内容の編成を検討する。	小田　通 柴田里彩
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	教育内容の広範かつ一般的な計画としての教育課程について、支援が必要な子どもも包括したユニバーサルデザインとして実践する方法について学ぶ。	是永かな子 平石勝久
		アクティブラーニングの理論と実践	アクティブラーニング（活動的・協同的・省察的な学び）を基礎づけている資質・能力論や評価論や教師教育論や学校論だけではなく、授業における行為やコミュニケーションに関する実証的研究の成果、小集団学習等に関する実証的研究の成果、そして「学びの共同体」等の近年の学校現場における取り組みも扱い、教育方法学における多様な観点からアクティブラーニングについて学ぶ。	中野俊幸 野村幸代 末永琢也
		ICTを活用したデジタル教育の理論と実践	ICTを用いた教育は我が国においては始まったばかりである。ICTを用いた教育の理論と実践について学ぶとともに、学校の設備にも差がある中で、さまざまな環境の学校を想定して具体的な授業実践を考えることを目標とする。 具体的には、国内のICTを利用した教育実践、さらに海外のICTを利用した教育実践の分析と検討を通し、ICTを利用した教育の在り方について、その目的と効果、児童生徒の成長段階にあわせた活用の効果を考察する。また、様々な機器の使用と利用の工夫を、実習を交えて学ぶ。 これらの結果をもとに、具体的な教科指導場面を想定した模擬授業の実施とその検討を行うことで、多くの学校で実践可能なICTを利用した教育法について考える。	岩城裕之 中野俊幸 加納理成 中城　満 矢田敦之 野中陽一朗
	生徒指導及び教育相談に関する領域	変動する社会と生徒指導の理論と実践	多様・複雑化する社会に生きる児童生徒の全人的な成長・発達を促進するために、いじめ、不登校、自殺、学級崩壊や校内暴力など教育的諸問題の解決に向けて、生徒指導が担う役割や課題について検討する。そのために、生徒理解を深めるための協議や事例検討を行う。さらに学校内はもとより地域や関係専門機関等における適切な連携、協働体勢を構築し推進していくことの意義や具体的方法について考察する。それにより、学校内外の情報を迅速に収集し、適切に生徒の状態や課題を理解する力を身に付ける。さらに生徒指導の様々な方法を熟知し、明確な生徒指導方針のもと、地域や関係専門機関と行動連携しながら効果的な教育活動を展開できる力を身に付ける。	大西雅人 福住紀明 横山　卓
		教育相談の理論と実践	論文抄読を中心にしながら、教育相談に関わる様々な心理・行動・身体的問題について学習する。抄読においては、論文の概要を理解するだけでなく、論文中で取り上げられる各種疾患や支援技法、研究手法等についてもその都度詳しく取り上げていくこととする。実際の事例や取組、実験・調査を通じて様々な問題や支援技法、研究手法について学ぶことにより、高い学習効果が期待できる。これらを通して、様々な教育臨床的問題を理解・把握し対応する力と、それらを学級経営や学校経営に活かしていく力を育成する。	古口高志 大西雅人 三ツ石行宏 福住紀明
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織マネジメントの理論と実践	学校組織改革に関する政策動向、学校組織・学校経営に関する制度、学校経営と教育行政の関係、学校経営への保護者地域住民の参画、海外の教育改革等の検討を通して、現代の学校において必要とされる組織マネジメントを実践できる力と、開かれた学校づくりを進めていく力量を身につけることを目標とする。	柳林信彦 平石勝久 藤中雄輔
		学級経営の理論と実践	学級経営の目的と方法を踏まえ、学級集団の理解とその中での個々の発達課題を視野に入れた準拠集団の形成過程に関する理論的背景に裏打ちされた実践力を身につけることを目標とする。	大西雅人 柴　英里 野中陽一朗
	学校教育と教員の在り方に関する領域	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	小規模校・複式学級等に関する高知県の地域的特性、幼児教育と小学校教育との接続の問題、中学校の学力問題や児童生徒の思考力・判断力・表現力の弱さなどの高知県独自の課題について理解し、課題の要因を分析する。また、高知県の教育課題について、学校・学級経営や、幼小連携、学習指導などの教育実践、特別支援教育の視点で、その取組事例について考察・検討を行う。その上で、高知県における教育課題解決のためのプランを自身で構想・立案し、発表を行うとともに、高知県の教育課題解決に資する実践的視座を養う。	森　有希 松本 秀彦 秀真一郎 藤中雄輔
		教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	高知県の教育課題解決に向けて、データを利活用しながら課題発見的に取り組むために必要な力量形成を図ることを目的とする。授業では、高知県の教育/教育課題に関するデータを用いながら、科学的・統計学的手法を中心に、情報収集の仕方や、調査・分析方法、研究成果のまとめ方までを含む、エビデンスに基づいた教育研究を行うための基礎を養う。	柳林信彦 袴田綾斗 柴　英里
専門科目		学校管理職の役割と実践	現在、高知県内の学校は、学力向上やいじめ、不登校等の生徒指導上の諸問題を始めとし、様々な課題に直面している。また知識基盤社会に対応する学びの構築を始め、児童生徒が変化、進展の激しいこれからの社会を生き抜くために必要とされ、期待される力を身に付けてもらうための学校の在り方も問われている。これらの課題や要請に応える学校づくりを行うために学校管理職はどのような役割を担うのかを、学校経営の実際を分析しながら、課題解決の方法を見出し、これからの時代に応えられる学校経営実践力を身に付けていく。	柳林信彦 藤中雄輔

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
	学校マネジメントコース	学校組織開発の理論と実践	学校は、企業体のように変化するとか挑戦するということが自動化されていない。むしろ、児童生徒へのリスクを回避するために、不易を重んじる傾向にあるし、公教育機関として制度的に存在が保障されてきた。しかし、現代の学校は、地球温暖化や縮小社会状況の進展、ICTやAIの発達など急激な社会変動に晒されており、これまで以上に、その変化に不断に適応していく組織体であることが厳しく問われるようになってきた。こうした状況を受けて、高知県においても「土佐の教育改革」をはじめ、学校管理職に対する学校組織マネジメント研修の実施、主幹教諭等の配置や保幼小中連携事業の推進などに取り組んできた。しかしなお、その効果は必ずしも十分に発揮されているとは言い難い状況にある。 そこで、本科目は、学校を組織に組み上げていくために必要な基礎的な理論を講じ、これからのスクール・リーダに求められる知識とスキルの向上を果たす。	木岡一明
		保幼小中高の連携によるキャリア発達	キャリアとは、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねのことであり、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育を通して、キャリアの発達は促される。 産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしており、子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことが容易ではなくなっている。 本授業では、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにするため、就学前からの、発達段階に応じたキャリア教育そしてそれに伴うキャリア発達について探っていく。家庭や地域と連携した体験的なキャリア学習とは何か。学校段階ごとに設定された目的に沿って、保育・教育課程に位置付けられた計画的なキャリア教育で実施される保幼小中高連携によるキャリア発達について考える。	秀真一郎 柴田里彩 大西雅人 岡谷英明
		学校に求められるリスクマネジメント	学校や教育に関連する法律の理解や教育判例の考察を通して、学校事故やトラブルへの対応、教師の注意義務や加害/被害児童への教育的配慮の在り方、学校の裁量範囲などについての理解を深め、それらを自分なりに考え、実践しうる能力を養うことを目的とする。	柳林信彦 柴田里彩
		学校組織開発のための学校評価	日本の初等中等学校は長く制度依存し、さらには慣習依存し、その結果、自らの営みを反省的に捉え返し、成果を確かめ、次なるステップを実績に応じて組み上げていくというマネジメント・サイクルを確立しえてこなかった。それは、学校が経営体としての自律性を十分に有してこなかったこと以上に、そもそも学校が経営機能を発揮しうるだけの組織になりきれていないことに起因する。文部科学省が示している「学校評価ガイドライン」において、「学校の目標設定」や「全教職員の参加」を説いているのも、そうした問題認識に基づくものと理解される。一方、高知県において第1期「土佐の教育改革」において「授業評価システム」の導入が試みられたが、やはり定着に至らなかった。その反省のもと、高知県教育委員会では、高知県版の学校評価ガイドラインの策定など、各校への学校評価の普及・定着を図る試みを重ねてきたが、なお多くの課題を残している。 そこで、本科目では、高知県に適した学校評価システムの確立を企図し、学校がマネジメント・サイクルを機能させていくプロセス設計を果たし、組織的に取り組む学校評価のあり方を探究する。	木岡一明
		組織的な生徒指導と人権教育	高知県の教育課題である不登校対策等の生徒指導上の諸課題への対応については、学校生活への適応や学習意欲の喚起、仲間づくりなど多方面からの総合的、組織的な対応が求められる。こうした生徒指導上の諸課題に対して、生徒指導上の3機能を効果的に生かした教育活動を教科横断的に実施したり、外部人材と連携した教育活動を行ったりする組織的な対応を学ぶ。 また、人権教育については、同和教育から人権教育へと再構築されるなかで、厳しい環境に置かれた児童生徒が表出する問題行動や自己否定的な態度に対して、どのような支援や教育実践が行われてきたのかを理解することができるよう、講義や実践事例に基づく協議を行う。また、マイノリティに対する排除の現状から、差別や排除の根底にある意識を理解するとともに、学校現場におけるいじめ問題と関連させ、児童生徒の人権を尊重した学校環境づくりに向けた具体的な方法等を考察し、一人一人を大切にした教育活動を学校全体で組織的に展開できる力を身に付ける。	大西雅人 松村智明

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
		高知県の地域教育リソース開発	変化の激しい時代において、学校を取り巻く環境は厳しさを増す一方であり、社会の要請に応えるには従前の学校経営では応じられなくなってきている。高知県においても学校教育に内在する様々な問題の解決には、学校内部の取り組みだけでは到底解決できない状況が生まれている。また、子供たちに、これからの社会において求められる、資質や能力を身に付けてもらうためには、多様な知識や経験を持つ人材を始めとし地域の資源、フィールドを生かすことが重要である。加えて、地域振興や防災等の観点からも、学校が地域の発展や安全にどのように参画できるかも問われている。 こうしたことから、これらの課題や要請に応える学校づくりを行うために、実際の学校経営を分析しながら、地域の様々な資源をどのように学校経営に生かすことができるかを在籍校等の学校経営に照らして考察する。	藤中雄輔 横山　卓 三ツ石行宏 平石勝久
		学校組織開発演習	1年次で学んだ共通科目、とりわけ「学校組織マネジメントの理論と実践」、さらに「学校組織開発の理論と実践」をはじめとした学校マネジメントコース専門科目と、「実習Ⅰ」及び「同Ⅱ」での学修を基礎に、より実践的な学校組織開発を推進する着眼点と推進ポイントを、ワークショップやグループ・ディスカッションを通じて理解し、効果的な教育的リーダーシップの発揮の仕方を修得して、優れた学校教育運営リーダーとしての資質・能力を向上させる。	木岡一明
	授業実践コース	道徳教育の理論と実践	道徳教育及び道徳科の趣旨、内容、指導方法、道徳教育に関する理論的背景や道徳性の発達に関する理論等についての理解をもとに、効果的な道徳教育を創造し展開するための協議や事例検討、指導計画や学習指導案の作成及び模擬授業等の演習を行う。 その上で、いじめの問題など高知県の教育課題の解決に向けて、道徳教育の側面から開発的な実践を構想し、発表・演習を行うことによって、高知県の教育課題の解決に資する道徳教育の展開を提案する。	森　有希 岡谷英明
		就学前からの発達と教育実践	本科目では、就学前、すなわち乳幼児期の心身の発達や社会性の発達に関しての理解を深めるとともに、乳幼児の発達の過程や特性を踏まえた指導・支援計画を立案し、展開できる実践的指導力を身につけることを目的とする。また、乳幼児教育において重要となる、保護者支援、多職種連携、社会資源活用などについても理解を深めていく。授業では、通常講義だけでなく、高知県における保育・幼児教育の現状も念頭に置きながらの協議や事例検討を多く取り入れていくこととする。	古口高志 秀真一郎 三ツ石行宏
		教育評価から捉える子どもの心理と理解	本科目では、子どもの学力・学習状況や、思考力・判断力・表現力等を多角的に評価するための様々な教育心理学的評価、および、子どもの心理・生理・行動面を客観的に捉えるための様々な臨床・発達心理学的評価について学習する。また「評価」と不可分な関係にある「測定」、すなわち統計関連の基礎事項についてもとりあげる。さらに、これら心理学的な観点だけでなく、よりマクロな社会学的観点からも子どもの状態を捉えていく。これらの内容を通して、子どもに関わる様々な情報を偏りなく正確に理解する力を育成する。	古口高志 横山　卓 福住紀明 野中陽一朗
		授業におけるICT活用の開発的実践	ICTを活用した教育について、先進的な事例を分析するとともに、自らコンテンツの企画ができ、学校現場で他の教員に企画・助言できるようになることを目指す授業である。 まず、国内外を問わず先進的な事例を中心に分析することで、ICTを利用した教育の望ましい姿を学ぶ。次に、具体的な授業場面を想定した指導案の作成と模擬授業、教材（コンテンツ）の開発を行う。この授業ではさまざまな教科でのICT活用を横断的に学ぶことを特に重視する。これによって、学生自らが専攻する教科以外でのICT活用について理解し、学校現場でICT活用の中核的な役割を果たせるようになることを目指す。	岩城裕之 中野俊幸 野村幸代 末永琢也 加納理成 矢田敦之
		高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発	高知県の学校現場の教育実践における課題の明確化のため、院生自身の経験に基づいて、また、県外・国外の現状や各地の教育実践史に照らしつつ、構造的に実態を把握する。 そして、把握された実態に即した具体的な教育方法および教育方法開発のあり方について、学習活動の様々な特性を踏まえて授業研究やカリキュラム研究の知見から学ぶ。	末永琢也 藤中雄輔
		国語科学習指導法の理論と実践	学習指導要領のねらいを理解するとともに、学習指導要領を踏まえた国語科の授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に教育経験のある現職教員受講生が資料を準備し、「素材・教材研究」「指導法研究」の2つの視点から他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、国語科の学習指導法の理論研究や授業展開のための実践力の伸長を図る。	岩城裕之 田中元康 三好　文
		国語科教材研究・開発の理論と実践	国語科の目標として、児童生徒が言語による見方・考え方を働かせること、言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することができることが求められている。本授業では、これらを達成する授業づくりのための教材研究・開発の在り方について、その要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。 具体的に説明文と物語文教材を設定し、その分析を行うことを演習形式で実施するとともに、授業を構想する。	岩城裕之 田中元康 三好　文

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
		国語科教育マネジメントの理論と実践	学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、学年進行に注目した「縦」と、「読む・書く・話す・聞く」の各能力相互の「横」の2つの観点で国語科のカリキュラムの在り方について考察する。さらに国語科で育成する能力と他教科との連携も視野に入れた国語科のカリキュラムの在り方についても考察する。 具体的には、教科書教材をもとに、小学校6年間、中学校3年間の国語科のカリキュラムの在り方を演習形式で検討するとともに、国語科と総合の時間を含めた他教科との連携の在り方についても演習形式で検討する。	岩城裕之 田中元康 三好　文
		国語科授業分析・改善演習	学習指導要領のねらいを深く理解した上で、国語科の授業改善のための重要な視点として授業実践の分析を中心に据え、国語科授業を批判的に検討するための観点を修得することを目的とする。 具体的には素材研究・教材研究・指導法研究のそれぞれについて、授業実践例を集め分析を行う。また、具体的な学習指導案の作成等を通して、課題設定や板書、ノート指導等具体的な授業改善の方法を演習を通して探究し、それらの実践的能力を育成する。	岩城裕之 田中元康 三好　文
		社会科学習指導法の理論と実践	社会科（および地理歴史科と公民科）における学習指導要領を踏まえた学習指導の理論と実践方法について学ぶ。本科目では、指導理論を教授するとともに、現職教員院生に授業実践の経験に基づく資料を準備してもらう。そして、議論やレポート等に基づいて、社会科の学習指導法の理論的検討や、社会科の授業実践の力の育成を行う。 また、教科のねらいや高知県の課題に即してICT機器も活用し児童生徒の学習意欲を喚起し対話を促進し社会科における深い学びを実現することのできる、創意工夫ある社会科の学習指導の力を育成する。	末永琢也 藤田詠司 武田敏宏
		社会科教材研究・開発の理論と実践	社会科（および地理歴史科と公民科）における学習指導要領を踏まえた学習指導の理論と実践方法について学ぶ。本科目では、指導理論を教授するとともに、現職教員院生に授業実践の経験に基づく資料を準備してもらう。そして、議論やレポート等に基づいて、社会科の学習指導法の理論的検討や、社会科の授業実践の力の育成を行う。 また、教科のねらいや高知県の課題に即してICT機器も活用し児童生徒の学習意欲を喚起し対話を促進し社会科における深い学びを実現することのできる、創意工夫ある社会科の学習指導の力を育成する。	末永琢也 藤田詠司 武田敏宏
		社会科教育マネジメントの理論と実践	社会的事象に関する課題を主体的に解決してよりよい社会を実現しようとする態度などを育成する社会科教育のマネジメントのあり方について、地理歴史科教育や公民科教育に通ずるものも含め重要な要素を見いだしつつ実践的能力を育成する。学習指導要領のねらいや高知県の学力向上等に関する課題についての理解に基づく社会科教育マネジメントの力を育む。 カリキュラムの計画、実践、評価、改善のサイクルで教科経営を見直す方法について学んだり、外部人材や施設等を活用しつつ教科内容についての児童生徒の体験的・経験的な理解を深めたりすることができるカリキュラム・マネジメントの力も育成する。	末永琢也 藤田詠司 武田敏宏
		社会科授業分析・改善演習	学習指導要領に基づき社会科（および地理歴史科と公民科）の授業を批判的に検討する観点や方法について授業分析などを通して学んでもらう。社会科の授業改善のために多様な学習方法と授業分析とを関連させる。また、指導案作成や演習を通して、院生に具体的な課題設定や授業改善の方法を探究し課題設定や授業改善に関する実践的能力を身につけてもらう。 想定される児童生徒の発達段階や高知県の課題や、院生自身の批判的・開発的視点による授業実践分析も重視しつつ、社会科における深い学びを実現する現実的で具体的な授業改善方法を院生自身が考案できるようにする。	末永琢也 藤田詠司 武田敏宏
		算数・数学科の学習指導の理論と実践	数学教育学の基礎理論および算数・数学科学習指導に関連する学習心理学や教育学の諸理論を理解し、それを基に国内外の算数・数学科学習指導の問題点と課題を明らかにする。また、改善方法について議論する。	中野俊幸 矢田敦之 袴田綾斗
		算数・数学科の教材研究の理論と実践	算数・数学科の教材について数学の専門的視座から数学的意義を理解し、数学的に考える資質・能力を育成するための陶冶材としての教育的価値を考察する。また、教材の数学的発展性・応用可能性を活かした授業実践について議論する。	加納理成 佐藤淳郎 山口俊博
		算数・数学科の教材開発と授業デザインの理論と実践	算数・数学科の従来の教材を数学的発展性や子どもの活動性から再構成したり、数学的素材から新たに教材化したりして教材を開発し、開発した教材から構成できる数学的活動や数学的学習場を探求する。また、その授業をデザインし、授業実践して教育的有効性を議論する。	中野俊幸 加納理成 矢田敦之 袴田綾斗 佐藤淳郎 山口俊博
		算数・数学科の授業研究と授業改善演習	算数・数学科の授業研究の理論的モデルや効果的実施方法を理解し、授業研究のサイクルを実施して授業改善を演習する。演習を通して、算数・数学授業の実践的指導力を向上させ、算数・数学授業実践に対する指導・助言の能力を養成する。	中野俊幸 加納理成 矢田敦之 袴田綾斗 佐藤淳郎 山口俊博
		理科学習指導法の理論と実践	学習指導要領を踏まえた理科の授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に教育経験のある現職教員受講生が資料を準備し、他の受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、理科の授業開発の理論構築や授業展開のための実践力の伸長を図る。	小田　通 中城　満 草場　実

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
		理科教材研究・開発の理論と実践	学習指導要領のねらいを深く理解した上で、理科授業を批判的に検討するための観点について授業分析などを通して修得する。子どもが自然の事物に興味関心を深め、目的意識をもって探究する能力の基礎と態度を身に付けるための教材研究・開発の在り方について、その要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。	小田　通 中城　満 赤松　直 伊谷　行 原田哲夫 西脇芳典 佐藤弘一
		理科教育マネジメントの理論と実践	学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、自由研究や野外観察会、校内環境整備なども含めた理科教育活動全般を通して子どもが自然の事物・現象や科学的な事項に興味関心を深め、目的意識をもって探究する能力の基礎と態度を身に付けるための理科教育マネジメントの在り方について、危機管理等を含めてその要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。	小田　通 中城　満
		理科授業分析・改善演習	学習指導要領のねらいを深く理解した上で、理科授業を批判的に検討するための観点について授業分析などを通して修得する。理科の授業改善のための重要な視点として、授業実践・分析を中心に据え、多様な学習方法との関連を明確にしていく。また、具体的に学習指導案の作成等を通して、課題設定や板書、ノート指導等具体的な授業改善の方法について演習を通して探究し、それらの実践的能力を育成する。	小田　通 中城　満
		英語科学習指導法の理論と実践	児童生徒が英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる授業づくりのための教材研究・開発の在り方について、その要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。 英語科においては、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して実際にコミュニケーションを行う学習の充実が求められている。こうした学習活動を充実させるための教材はいかなるものなのかについて、児童生徒の発達の段階を踏まえながらICT等も活用したデジタル教育の観点からも教材を研究・開発していける教材開発力を養っていく。	野村幸代 竹﨑優子
		英語科教材研究・開発の理論と実践	児童生徒が英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる授業づくりのための教材研究・開発の在り方について、その要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。 英語科においては、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して実際にコミュニケーションを行う学習の充実が求められている。こうした学習活動を充実させるための教材はいかなるものなのかについて、児童生徒の発達の段階を踏まえながらICT等も活用したデジタル教育の観点からも教材を研究・開発していける教材開発力を養っていく。	野村幸代 竹﨑優子
		英語科教育マネジメントの理論と実践	学習指導要領のねらいを深く理解し、高知県の学力向上における課題を明らかにした上で、外国語の背景にある文化に対する理解を深めるなどして、英語によりコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていくための英語科教育マネジメントの在り方についてその要素を見いだし、それらの実践的能力を育成する。 特に、英語科教育マネジメントに当たっては、カリキュラムの計画、実践、評価、改善のPDCAサイクルで教科経営を見直す方法について学んだり、外部人材等を活用しながら体験的な学びの中で教科の理解を深めたりすることができるカリキュラムマネジメント力についても養っていく。	野村幸代 竹﨑優子
		英語科授業分析・改善演習	学習指導要領のねらいを深く理解した上で、英語科授業を批判的に検討するための観点について授業分析などを通して修得する。英語科の授業改善のための重要な視点として、授業実践・分析を中心に据え、多様な学習方法との関連を明確にしていく。また、具体的に学習指導案の作成等を通して、課題設定や板書、ノート指導等具体的な授業改善の方法を演習を通して探究し、それらの実践的能力を育成する。 授業改善に当たっては、作成した学習指導案をもとに模擬授業等による実践演習を行って、それを受講者が批判的、開発的な視点で吟味するなかで児童生徒の発達段階を踏まえ、教科における深い学びを追究し得る具体的な改善策を見いだしていけるようにする。	野村幸代 竹﨑優子
	特別支援教育コース	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	「学校の特別支援教育体制づくりと特別支援教育制度」では学校体制づくりの専門性として、個別指導を行う教員に助言をする力としての「学級・HR経営力」、管理職に提案をする力としての「戦略マネジメント力」、学校内の特別支援教育コーディネーターと共に学校体制を整備する力としての「チームマネジメント力」を育成する。	是永かな子
		限局性学習症評価の基礎と実際	限局性学習症（SLD）など発達障害のある子どもに対応するためには、彼らが示す認知特性を理解し特性に応じた指導を展開することが求められる。本授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校でよく用いられる発達特性を理解するためのアセスメントを取り上げ、その方法・解釈・指導への活用法について、受講生が最新の研究論文を抄読しレポートすることを通してアセスメントの実践的活用について理解する。	松本秀彦
		限局性学習症指導の理論と実践	Specific Learning Disorder（SLD）（限局性学習症）の指導に関し、認知特性・アセスメント・指導をキーワードとし、受講生が各々の関心に従って最新の研究論文を抄読・レポートし討論することを通して実践的知識を習得する。	松本秀彦

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
		注意欠如多動症評価の基礎と実際	前半で認知機能、脳機能の背景理解とアセスメント方法について講義し、後半で受講生がアセスメント法を用いた事例研究論文を発表し討議する。	松本秀彦
		注意欠如多動症指導の理論と実践	前半で注意欠如多動症についての指導法の基礎を学び、後半で受講生が注意欠如多動症の指導法の事例研究論文を発表し討議する。	松本秀彦
		知的障害指導の理論と実践	主として初期認知の学習研究から導き出された知見を紹介し、学習特性が生ずる背景について概説する。ついで、特別支援学校（知的障害）で行われている授業実践をもとに授業方法の検討を行う。	二宮啓 宮田賢吾
		肢体不自由評価の基礎と実際	特別支援学校(肢体不自由)や通常学級に在籍する肢体不自由児の障害特性や発達段階の実態把握、及び教育効果の評価について学ぶ。	是永かな子 平石勝久
		病弱評価の基礎と実際	特別支援学校(病弱)に在籍する病弱児について、大きく分類して身体疾患、精神疾患の枠組みの中でいくつかの疾患種を想定し、評価の在り方と指導の実際について学習する。	是永かな子
		高知県の特別支援教育の実態把握と分析	高知県の特別支援教育の実態についてその概要を理解するとともに、受講生自身も高知県の特別支援教育の取組や実態をレポートしてその分析を多面的・多角的に検討するという形態を主とした演習を行う。そのうえで、校内研修のテーマ設定や校内研修の推進、展開においてキーパーソンとなれるように、特別支援教育にかかわる研究領域において、関係者が共有すべき最新の研究動向を文献講読等も行いながら把握し、高知県の学校教育の現場に提案できる力を育成する。	是永かな子 平石勝久
総合実践力科目	学校マネジメントコース	教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	「学校マネジメント実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や学校評価について学び、理論と実践の融合を図りながら実習における自らの課題を省察的に捉え、学校マネジメントに関する理解を確かなものにする。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会する合同ゼミを2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。	中野俊幸 藤田詠司 岩城裕之 柳林信彦 野村幸代 古口高志 中城　満 横山　卓 加納理成 福住紀明 三ツ石行宏 袴田綾斗 矢田敦之 柴田里彩 藤中雄輔 大西雅人 森　有希 小田　通 末永琢也 秀真一郎 田中元康
		教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	「学校マネジメント実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える学校組織や学校評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、学校マネジメントに関する理解をもとに思考を深める。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミを2回開催する。これらの活動を通して、実習における自らの実践研究を省察し、総括を行う。	
		総合実践研究（学校マネジメント）	学校マネジメントコースにおいて、講義科目と実習科目を通した2年間の学修を総合的に検討し、理論と実践の融合を図りながら学校の課題解決に資する自身の指導理論を構築する。その過程では、学校マネジメントに関する研究課題の立案や研究の構想、実践等を検証するためのデータ収集や分析などの研究手法についても学ぶ。また、自身の指導理論を支える先行研究や先行事例、諸理論についても理解し、エビデンスに基づく理論構築を図っていく。さらには、自身の指導理論を多角的に検討し、再構成しながら学校現場で汎化活用できる指導理論にまで高めていく。	
	授業実践コース	教育実践研究Ⅰ（授業実践）	「授業実践実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、授業実践に関する理解を確かなものにする。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会する合同ゼミを2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。	中野俊幸 藤田詠司 岩城裕之 柳林信彦 野村幸代 古口高志 中城　満 横山　卓 加納理成 福住紀明 三ツ石行宏 袴田綾斗 矢田敦之 柴田里彩 藤中雄輔 大西雅人 森　有希 小田　通 末永琢也 秀真一郎 田中元康
		教育実践研究Ⅱ（授業実践）	「授業実践実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える教授方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、授業実践に関する理解をもとに思考を深める。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミを2回開催する。これらの活動を通して、実習における自らの実践研究を省察し、総括を行う。	
		総合実践研究（授業実践）	授業実践コースにおいて、講義科目と実習科目を通した2年間の学修を総合的に検討し、理論と実践の融合を図りながら学校の課題解決に資する自身の指導理論を構築する。その過程では、授業実践に関する研究課題の立案や研究の構想、実践等を検証するためのデータ収集や分析などの研究手法についても学ぶ。また、自身の指導理論を支える先行研究や先行事例、諸理論についても理解し、エビデンスに基づく理論構築を図っていく。さらには、自身の指導理論を多角的に検討し、再構成しながら学校現場で汎化活用できる指導理論にまで高めていく。	

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
	特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	「特別支援教育実習Ⅰ」における教育活動の取り組みを支える支援方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、特別支援教育に関する理解を確かなものにする。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育実践を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会する合同ゼミを2回開催する。これらの活動を通して、自らの実践研究を省察し、「教育実践研究Ⅱ」に向けた展望と研究方針、計画等を明確にする。	是永かな子 松本秀彦 平石勝久 二宮啓 小川裕代
		教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	「特別支援教育実習Ⅱ」における教育活動の取り組みを支える支援方法や評価について学び、理論と実践の融合を図りながら、実習における自らの課題を省察的に捉え、特別支援教育に関する理解をもとに思考を深める。なお、本科目では、各自の研究課題に応じてグループ討議を行ったり、多様な視点で教育活動を省察したりすることを目的として全ての院生・専任教員・実習担当者等が一堂に会するゼミを2回開催する。これらの活動を通して、実習における自らの実践研究を省察し、総括を行う。	
		総合実践研究（特別支援教育）	特別支援教育コースにおいて、講義科目と実習科目を通した2年間の学修を総合的に検討し、理論と実践の融合を図りながら学校の課題解決に資する自身の指導理論を構築する。その過程では、特別支援教育に関する研究課題の立案や研究の構想、実践等を検証するためのデータ収集や分析などの研究手法についても学ぶ。また、自身の指導理論を支える先行研究や先行事例、諸理論についても理解し、エビデンスに基づく理論構築を図っていく。さらには、自身の指導理論を多角的に検討し、再構成しながら学校現場で汎化活用できる指導理論にまで高めていく。	
実習科目	学校マネジメントコース	学校マネジメント実習Ⅰ（学部卒用）	学校マネジメントコースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属学校園及び高知県立高校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級に配属されT2として教育活動を行ったり、担任業務の補助や特定の校務分掌の補佐を行ったりする中で、自身の論究すべき研究課題を整理し、課題に基づいて学校や学級の教育マネジメント活動を行う。	中野俊幸 藤田詠司 岩城裕之 柳林信彦 野村幸代 古口高志 中城　満 横山　卓 加納理成 福住紀明 三ツ石行宏 袴田綾斗 矢田敦之 柴田里彩 藤中雄輔 大西雅人 森　有希 小田　通 末永琢也 秀真一郎 田中元康 三好　文 松村智明 竹﨑優子
		学校マネジメント実習Ⅱ（学部卒用）	学校マネジメントコースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、授業や学校行事、校内研究会や職員会議などにも参加し、学校の一員として学校や学級の教育マネジメントに当たる中で、「実習Ⅰ」で身に付けた教育実践力を実習校の実態に応じて発揮し、自身の研究を深化させ、残された課題を発見してその克服に当たる。また、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。	
		学校マネジメント実習Ⅰ（現職教員用）	学校マネジメントコースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学校や学級の教育マネジメント活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。	
		学校マネジメント実習Ⅱ（現職教員用）	学校マネジメントコースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学校や学級の教育マネジメント活動に参画する中で、「実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行う。また、「実習Ⅰ」で得られた知見等に基づいて、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。	

科目区分		授業科目名	講義概要	担当教員名
	授業実践コース	授業実践実習Ⅰ（学部卒用）	授業実践コースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属学校園及び高知県立高校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、学級に配属されT2として教育活動を行ったり、担任業務の補助や特定の校務分掌の補佐を行ったりする中で、自身の論究すべき研究課題を整理し、課題に基づいて教科等の単元における授業実践を行う。	中野俊幸 藤田詠司 岩城裕之 柳林信彦 野村幸代 古口高志 中城　満 横山　卓 加納理成 福住紀明 三ツ石行宏 袴田綾斗 矢田敦之 柴田里彩 藤中雄輔 大西雅人 森　有希 小田　通 末永琢也 秀真一郎 田中元康 三好　文 松村智明 竹﨑優子
		授業実践実習Ⅱ（学部卒用）	授業実践コースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、授業や学校行事、校内研究会や職員会議などにも参加し、学校の一員として児童生徒の指導に当たる中で、「実習Ⅰ」で身に付けた単元構想力や授業実践力を実習校の実態に応じて発揮し、自身の研究を深化させ、残された課題を発見してその克服に当たる。また、自身の教職就職後の研究テーマを明確化する。	
		授業実践実習Ⅰ（現職教員用）	授業実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、学校課題や教育課題を分析し、その明確化を図り、実践研究の見通しを立てる。	
		授業実践実習Ⅱ（現職教員用）	授業実践コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。実習校においては、授業実践等に関する教育活動に参画する中で、「実習Ⅰ」で行った実践研究の分析をもとに更に探究的に課題解決を行う。また、「実習Ⅰ」で得られた知見等に基づいて、自ら企画・立案した解決策を探究的に実践し、その成果を検証して、より効果的な実践（指導理論）を構築していく。	
	特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	特別支援教育コースの学部卒院生が、高知大学教育学部附属学校園及び高知県立高校のうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。前半は、自身の論究すべき特別支援教育に関する研究テーマに従って、学校の組織運営または学級や児童生徒に関する観察・調査・各種検査等を実施する。「教育実践研究Ⅰ」で作成する支援案が完成した段階で、それを基に支援を実践し、その支援成果を評価する。	是永かな子 松本秀彦 平石勝久 二宮啓 小川裕代
		特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	特別支援教育コースの学部卒院生が、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。「教育実践研究Ⅰ」の終了時に行った実践評価を基に支援を実践し、その支援成果を評価することで、自身の研究を深化させる。	
		特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	特別支援教育コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において1年次通年集中科目として実習を行う。前半は、実習校において自身の論究すべき特別支援教育に関する研究テーマに従って、学校の組織運営または学級や児童生徒に関する観察・調査・各種検査等を実施する。「教育実践研究Ⅰ」で作成する支援案(当該の研究課題により「学校支援計画」、「個別の教育支援計画」または「個別の指導計画」を指す)が完成し、後半はそれを基に支援を実践し、その支援成果を評価する。	
		特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	特別支援教育コースの現職教員院生が、附属学校園、研究指定校、在籍校のいずれかのうち、自身の研究課題に基づいて決定した実習校において2年次通年集中科目として実習を行う。「教育実践研究Ⅰ」の終了時点でなされた支援評価を基に「教育実践研究Ⅱ」で作成された第2段階の支援案(当該の研究課題により「学校支援計画」、「個別の教育支援計画」または「個別の指導計画」を指す)を基に更に探究的に課題解決を行う。	

Ⅴ．各コース・キャリア別の育成する力の概要

学校マネジメントコース

①知識・理解・技能　②思考・判断・表現　③関心・意欲・態度

	学部卒院生	現職教員院生
育成する人材像	学校や学級の教育マネジメントに関する専門性と実践力を備え、学校組織の中で自己の役割を果たすことができる教員	学校や学級の教育マネジメントに関する専門性と実践力を備え、学校の教育活動を計画的・組織的にマネジメントし、組織の改革を推進していくことができる中核的中堅教員
ディプロマポリシー	①学校や学級の教育マネジメントに関する高度な専門的知識と教育実践力を修得している。 ②学校や学級をめぐる現代的諸課題について、幅広く専門的知見に結び付けて考えることができ、学校の教育活動を計画的・組織的にマネジメントすることができる。 ③学校内外の教育資源を統合・調整し、学校組織が効率的・効果的に動くよう、学校組織の一員として自己の役割を果たすことができる。	①学校や学級の教育マネジメントに関する高度な専門的知識と教育実践力を修得している。 ②学校や学級をめぐる現代的諸課題について、幅広く専門的知見に結び付けて考えることができ、リーダーとして学校の教育活動を計画的・組織的にマネジメントすることができる。 ③高度な専門的知識と教育実践力を持った専門的職業人として、学校内外の教育資源を統合・調整し、学校組織が効率的・効果的に動くよう組織の改革を推進していくことができる。
組織マネジメント力	PDCAの考え方に基づき職務に取り組むとともに、学校のデジタル化や業務の効率化などの取組を推進することができる。 ①PDCAの考え方を理解している。 ②PDCAに基づき、組織マネジメントのあり方について考えることができる。 ③学校のデジタル化や業務の効率化などの取組を推進しようとする意欲を持っている。	PDCAの考え方に基づき職務に取り組むとともに、学校のデジタル化や業務の効率化などの取組を組織的に推進することができる。 ①PDCAの考え方を理解している。 ②PDCAの考え方に基づき、組織マネジメントに取り組んでいくことができる。 ③学校のデジタル化や業務の効率化などの取組を組織的に推進しようとする意欲を持っている。
カリキュラムマネジメント力	児童生徒や地域の実態を把握し、ICT環境等の資源も活用しながら教科等横断的な視点で教育活動を実施していくことができる。 ①教科等横断的な視点での教育活動について理解している。 ②児童生徒や地域の実態に応じたカリキュラムマネジメントのあり方を考えることができる。 ③ICT環境等の資源も活用しながら教科等横断的な視点で教育活動を実施していこうとする意欲を持っている。	児童生徒や地域の実態を踏まえ、教育課程を編成し、ICT環境等の資源も活用しながら教科等横断的な視点で計画的・組織的に教育活動を実施していくことができる。 ①教科等横断的な視点での教育活動について理解している。 ②児童生徒や地域の実態を踏まえ、教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントに取り組んでいくことができる。 ③ICT環境等の資源も活用しながら教科等横断的な視点で計画的・組織的に教育活動を実施していこうとする意欲を持っている。
リスクマネジメント力	児童生徒の生命や心身等に危害をもたらす危険やいじめなどを防止したり、それらに対処したりすることができる。 ①危険やいじめなどの防止、対処方法について理解している。 ②危険やいじめなどを防止したり、それらに対処したりするためのリスクマネジメントについて考えることができる。 ③危険やいじめなどを防止したり、それらに対処したりしようとする意欲を持っている。	児童生徒の生命や心身等に危害をもたらす危険やいじめなどを防止したり、それらに適切かつ迅速に対処したりすることができる。 ①危険やいじめなどの防止、対処方法について理解している。 ②危険やいじめなどを防止したり、それらに対処したりするためのリスクマネジメントに取り組んでいくことができる。 ③危険やいじめなどを防止したり、それらに適切かつ迅速に対処したりしようとする意欲を持っている。
地域等マネジメント力	地域等にある人的・物的資源等を把握して、学校間連携や地域と連携した教育活動に貢献することができる。 ①学校間連携や地域と連携した教育活動のあり方について理解している。 ②地域等にある人的・物的資源等を把握して、地域等マネジメントのあり方について考えることができる。 ③学校間連携や地域と連携した教育活動に貢献しようとする意欲を持っている。	学校内外の教育資源を統合・調整し、学校組織が効率的・効果的に動くよう、学校間連携や地域と連携した教育活動を推進していくことができる。 ①学校間連携や地域と連携した教育活動のあり方について理解している。 ②学校内外の教育資源を統合・調整し、学校組織が効率的・効果的に動くよう、地域等マネジメントに取り組むことができる。 ③学校間連携や地域と連携した教育活動を推進していこうとする意欲を持っている。
人材育成力	学校の教育活動をより効果的に展開するために、教職員同士が学び合う仕組みづくりに貢献することができる。 ①教職員同士が学び合う仕組みづくりについて理解している。 ②学校の教育活動をより効果的に展開するための人材育成のあり方について考えることができる。 ③学校の教育活動をより効果的に展開しようとする意欲を持っている。	学校の教育活動をより効果的に展開するために、教職員に対して適切な指導・助言を行ったり、教職員同士が学び合う仕組みづくりを行ったりすることができる。 ①教職員同士が学び合う仕組みづくりについて理解している。 ②学校の教育活動をより効果的に展開するために、教職員に対して適切な指導・助言を行ったりして人材育成に取り組むことができる。 ③学校の教育活動をより効果的に展開するために、教職員に対して適切な指導・助言を行おうとする意欲を持っている。
ガバナンス力	教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めるとともに、教育の質の向上と教職員の健康増進に向け、業務改善に取り組むことができる。 ①教育の質の向上と教職員の健康増進に向けた業務改善について理解している。 ②業務改善のためのガバナンスのあり方について考えることができる。 ③教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めようとする意欲を持っている。	教育の質の向上と教職員の健康増進に向け、業務改善に取り組むとともに、法令や行政方針に則って適正な学校経営に取り組むことができる。 ①教育の質の向上と教職員の健康増進に向けた業務改善について理解している。 ②業務改善や適正な学校経営のためのガバナンスに取り組むことができる。 ③業務改善や適正な学校経営を行っていこうとする意欲を持っている。
学級・ＨＲ経営力	児童生徒一人一人の特性を把握し、よりよい人間関係を築いて学級を経営していくことができる。 ①よりよい人間関係を築く学級経営について理解している。 ②児童生徒一人一人の特性を把握した学級経営のあり方について考えることができる。 ③よりよい人間関係を築いて学級を経営していこうとする意欲を持っている。	児童生徒一人一人の特性に応じて能力を高め、自己実現に向かって成長していくことができるよう学級を経営していくことができる。 ①よりよい人間関係を築く学級経営について理解している。 ②児童生徒一人一人の特性に応じて能力を高め、自己実現に向かって成長していくことができるような学級経営に取り組んでいくことができる。 ③自己実現に向かって成長していくことができるよう学級を経営していこうとする意欲を持っている。

授業実践コース

①知識・理解・技能　②思考・判断・表現　③関心・意欲・態度

	学部卒院生	現職教員院生
養成する人材像	教育実践に関する専門性と実践力を備え、学習目標の達成に向けた授業実践を行い、学校組織の中で自己の役割を果たすことができる教員	教育実践に関する専門性と実践力を備え、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる組織的な取組を推進し、学校の教育課題解決のために企画立案・実践することができる中核的中堅教員
ディプロマポリシー	①授業実践に関する高度な専門的知識と教育実践力を修得している。 ②児童生徒理解や学習指導について幅広く専門的知見に結び付けて考えることができ、学習目標の達成に向けた授業実践を行うことができる。 ③教育実践に関する多様な社会的ニーズと研究課題を明確に意識し、学校組織の一員として自己の役割を果たすことができる。	①授業実践に関する高度な専門的知識と教育実践力を修得している。 ②児童生徒理解や学習指導について幅広く専門的知見に結び付けて考えることができ、学習目標の達成に向けて開発的な授業実践を行うことができる。 ③教育実践に関する多様な社会的ニーズと研究課題を明確に意識し、学校の教育課題を解決するために、学習指導に関する方策を企画立案し、実行することができる。
児童生徒理解力	児童生徒一人一人の特性を把握し、その特性を踏まえた指導・支援を行うことができる。 ①児童生徒一人一人の特性を踏まえた指導・支援のあり方について理解している。 ②児童生徒一人一人の特性を把握し、理解する方法について考えることができる。 ③児童生徒一人一人の特性を踏まえた指導・支援を行おうとする意欲を持っている。	児童生徒一人一人の特性に応じて能力を高めていくことができるよう、指導・支援の工夫を行って組織的に対応することができる。 ①児童生徒一人一人の特性を踏まえた指導・支援のあり方について理解している。 ②児童生徒一人一人の特性に応じて能力を高めていくことができるよう、児童生徒理解に取り組むことができる。 ③児童生徒一人一人の特性に応じて指導・支援の工夫を行って組織的に対応していこうとする意欲を持っている。
学習指導力	教育方法に関する専門性を養い、ICT活用も含めて指導方法を工夫しつつ学習目標の達成に向けた授業実践を行うことができる。 ①教育方法に関する専門的事項について理解している。 ②ICT活用も含め、指導方法の工夫について考えることができる。 ③学習目標の達成に向けた授業実践を行おうとする意欲を持っている。	教育方法に関する専門性を高め、ICT活用も含めて指導方法を工夫・開発しつつ学習目標の達成に向けた授業改善を続けていくことができる。 ①教育方法に関する専門的事項について理解している。 ②ICT活用も含め、指導方法の工夫・開発に取り組むことができる。 ③学習目標の達成に向けた授業改善を続けていこうとする意欲を持っている。
チームマネジメント力	学校組織の一員として、自己の役割を果たし、互いに学び合って教育実践の向上につなげていくことができる。 ①教職員同士互いに学び合って教育実践の向上につなげていく方法について理解している。 ②教育実践の向上を図るチームマネジメントのあり方について考えることができる。 ③学校組織の一員として、自己の役割を果たしていこうとする意欲を持っている。	学校組織の一員として、人材育成に努めながら自己の役割を果たし、互いに学び合って教育実践力の向上につなげていくことができる。 ①教職員同士互いに学び合って教育実践の向上につなげていく方法について理解している。 ②教育実践の向上を図るチームマネジメントに取り組むことができる。 ③学校組織の一員として、人材育成に努めながら自己の役割を果たしていこうとする意欲を持っている。
セルフマネジメント力	教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めていくことができる。 ①教員としての資質・能力の向上の重要性やその方法を理解している。 ②自己の成長につながるセルフマネジメントのあり方について考えることができる。 ③教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めていこうとする意欲を持っている。	自ら学び続ける意欲をもち、課題意識や探究心をもって研鑽を積み、自己を高めることができる。 ①教員としての資質・能力の向上の重要性やその方法を理解している。 ②自己を高めていくセルフマネジメントに取り組むことができる。 ③自ら学び続ける意欲をもち、課題意識や探究心をもって研鑽を積んでいこうとする意欲を持っている。

特別支援教育コース

①知識・理解・技能　②思考・判断・表現　③関心・意欲・態度

	学部卒院生	現職教員院生
養成する人材像	特別支援教育に関する専門性と実践力を備え、特別支援教育の実践を改善し、組織的な推進体制を構築・継続していくことができる教員	特別支援教育に関する専門性と実践力を備え、児童生徒が自己実現に向けて成長できる学級集団を経営し、学校の特別支援教育に関する課題解決のために企画立案・実践することができる中核的中堅教員
ディプロマポリシー	①特別支援教育に関する最新の知見に基づく高度な専門的知識と教育実践力を修得している。 ②障害種別ごとの実態評価法や指導・支援法に関する高度な専門性を持ち、指導方法を工夫しつつ学習目標の達成に向けた授業実践を行うことができる。 ③学校組織の一員として自己の役割を果たし、特別支援教育の実践を改善し、児童生徒一人一人の特性や障害の状況に応じた対応をしていくことができる。	①特別支援教育に関する最新の知見に基づく高度な専門的知識と教育実践力を修得している。 ②障害種別ごとの実態評価法や指導・支援法に関する高度な専門性を持ち、組織的・計画的に特別支援教育体制を改善し続けることができる。 ③学校組織の一員として自己の役割を果たし、特別支援教育の実践を改善し、組織的な推進体制を構築・継続していくことができる。
児童生徒理解力	児童生徒一人一人の特性や障害の状況を把握し、その特性を踏まえた指導・支援を行うことができる。 ①児童生徒一人一人の特性や障害の状況を踏まえた指導・支援のあり方について理解している。 ②児童生徒一人一人の特性や障害の状況を把握し、理解する方法について考えることができる。 ③児童生徒一人一人の特性や障害の状況を踏まえた指導・支援を行おうとする意欲を持っている。	児童生徒一人一人の特性や障害の状況に応じて能力を高めていくことができるよう、指導・支援の工夫を行って組織的に対応することができる。 ①児童生徒一人一人の特性や障害の状況を踏まえた指導・支援のあり方について理解している。 ②児童生徒一人一人の特性や障害の状況に応じて能力を高めていくことができるよう、児童生徒理解に取り組むことができる。 ③児童生徒一人一人の特性や障害の状況に応じて指導・支援の工夫を行って組織的に対応していこうとする意欲を持っている。
学習指導力	特別支援教育に関する専門性を養い、ICT活用も含めて指導方法を工夫しつつ学習目標の達成に向けた授業実践を行うことができる。 ①特別支援教育に関する専門的事項について理解している。 ②ICT活用も含め、指導方法の工夫について考えることができる。 ③学習目標の達成に向けた授業実践を行おうとする意欲を持っている。	特別支援教育に関する専門性を高め、ICT活用も含めて指導方法を工夫・開発しつつ学習目標の達成に向けた授業改善を続けていくことができる。 ①特別支援教育に関する専門的事項について理解している。 ②ICT活用も含め、指導方法の工夫・開発に取り組むことができる。 ③学習目標の達成に向けた授業改善を続けていこうとする意欲を持っている。
チームマネジメント力	学校組織の一員として、自己の役割を果たし、互いに学び合って特別支援教育の向上につなげていくことができる。 ①教職員同士互いに学び合って特別支援教育の向上につなげていく方法について理解している。 ②特別支援教育の向上を図るチームマネジメントのあり方について考えることができる。 ③学校組織の一員として、自己の役割を果たしていこうとする意欲を持っている。	学校組織の一員として、人材育成に努めながら自己の役割を果たし、互いに学び合って特別支援教育に関する実践力の向上につなげていくことができる。 ①教職員同士互いに学び合っ特別支援教育のの向上につなげていく方法について理解している。 ②特別支援教育の向上を図るチームマネジメントに取り組むことができる。 ③学校組織の一員として、人材育成に努めながら自己の役割を果たしていこうとする意欲を持っている。
セルフマネジメント力	教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めていくことができる。 ①教員としての資質・能力の向上の重要性やその方法を理解している。 ②自己の成長につながるセルフマネジメントのあり方について考えることができる。 ③教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めていこうとする意欲を持っている。	自ら学び続ける意欲をもち、課題意識や探究心をもって研鑽を積み、自己を高めることができる。 ①教員としての資質・能力の向上の重要性やその方法を理解している。 ②自己を高めていくセルフマネジメントに取り組むことができる。 ③自ら学び続ける意欲をもち、課題意識や探究心をもって研鑽を積んでいこうとする意欲を持っている。

Ⅵ. 教職実践高度化専攻のカリキュラムツリー
学校マネジメントコース【学部卒院生】のカリキュラムツリー

修了時の力		PDCAの考え方に基づき職務に取り組むとともに、学校のデジタル化や業務の効率化などの取組を推進することができる。	児童生徒や地域の実態を把握し、ICT環境等の資源も活用しながら教科等横断的な視点で教育活動を実施していくことができる。	児童生徒の生命や心身等に危害をもたらす危険やいじめなどを防止したり、それらに対処したりすることができる。	地域等にある人的・物的資源等を把握して、学校間連携や地域と連携した教育活動に貢献することができる。	学校の教育活動をより効果的に展開するために、教職員同士が学び合う仕組みづくりに貢献することができる。	教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めるとともに、教育の質の向上と教職員の健康増進に向け、業務改善に取り組むことができる。	児童生徒一人一人の特性を把握し、よりよい人間関係を築いて学級を経営していくことができる。
		組織マネジメント力	カリキュラムマネジメント力	リスクマネジメント力	地域等マネジメント力	人材育成力	ガバナンス力	学級・HR経営力
2年	第2学期	総合実践研究（学校マネジメント）						
		学校マネジメント実習Ⅱ						
		教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）						
							学校組織開発演習	
	第1学期				高知県の地域教育リソース開発			
				組織的な生徒指導と人権教育				組織的な生徒指導と人権教育
				教育相談の理論と実践				教育相談の理論と実践
		ICTを活用したデジタル教育の理論と実践						
1年	第2学期	学校マネジメント実習Ⅰ						
		教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）						
		学校組織開発のための学校評価						
				学校に求められるリスクマネジメント				
			保幼小中高の連携によるキャリア発達					
					高知県の学校教育をめぐる現代的課題			
								学級経営の理論と実践
			開かれた教育課程の開発と実践					
	第1学期							学級経営の開発的実践
		学校組織開発の理論と実践						
						学校管理職の役割と実践		
					教育実践を科学する―データサイエンスでみる高知県の教育課題―			
		学校組織マネジメントの理論と実践						
				変動する社会と生徒指導の理論と実践				変動する社会と生徒指導の理論と実践
			アクティブラーニングの理論と実践					
			ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践					
入学時の力		（知識・理解・技能） 学校教育に関する一定の理解と、教育実践に必要とされる幅広い教養や教育に関する総合的な事項を理解するために必要となる知識・技能を備える。 （思考・判断・表現） 学校や地域の教育課題を理解し、その解決を思考する能力を備える。教育実践や教育活動が組織的に運営されることを理論的に検討する能力を備える。学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を備える。学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現し伝達する能力を備える。 （関心・意欲・態度） 教職への強い情熱を持ち、複雑化・多様化する教育課題に対して深い関心を持っている。学級経営や学習指導に関する実践的指導力を発揮しようとし、将来学校のリーダーとしての役割を果たそうとする意欲を持っている。主体的に課題を探究する態度を備える。課題について多様な考え方を適用する態度を備える。様々な人々と協働して課題を解決する態度を備える。						

専門科目	学校マネジメントコース（選択） 4科目以上	総合実践力科目	必修
共通科目	必修	実習科目	必修

学校マネジメントコース【現職教員院生】のカリキュラムツリー

修了時の力		PDCAの考え方に基づき職務に取り組むとともに、学校のデジタル化や業務の効率化などの取組を組織的に推進することができる。	児童生徒や地域の実態を踏まえ、教育課程を編成し、ICT環境等の資源も活用しながら教科等横断的な視点で計画的・組織的に教育活動を実施していくことができる。	児童生徒の生命や心身等に危害をもたらす危険やいじめなどを防止したり、それらに適切かつ迅速に対処したりすることができる。	学校内外の教育資源を統合・調整し、学校組織が効率的・効果的に動くよう、学校間連携や地域と連携した教育活動を推進していくことができる。	学校の教育活動をより効果的に展開するために、教職員に対して適切な指導・助言を行ったり、教職員同士が学び合う仕組みづくりを行ったりすることができる。	教育の質の向上と教職員の健康増進に向け、業務改善に取り組むとともに、法令や行政方針に則って適正な学校経営に取り組むことができる。	児童生徒一人一人の特性に応じて能力を高め、自己実現に向かって成長していくことができるよう学級を経営していくことができる。
		組織マネジメント力	カリキュラムマネジメント力	リスクマネジメント力	地域等マネジメント力	人材育成力	ガバナンス力	学級・HR経営力
2年	第2学期	総合実践研究（学校マネジメント）						
		学校マネジメント実習Ⅱ（現職教員用）						
		教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）						
							学校組織開発演習	
	第1学期				高知県の地域教育リソース開発			
				組織的な生徒指導と人権教育				組織的な生徒指導と人権教育
				教育相談の理論と実践				教育相談の理論と実践
		ICTを活用したデジタル教育の理論と実践						
1年	第2学期	学校マネジメント実習Ⅰ（現職教員用）						
		教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）						
		学校組織開発のための学校評価						
				学校に求められるリスクマネジメント				
			保幼小中高の連携によるキャリア発達					
					高知県の学校教育をめぐる現代的課題			
								学級経営の理論と実践
			開かれた教育課程の開発と実践					
	第1学期							学級経営の開発的実践
		学校組織開発の理論と実践						
						学校管理職の役割と実践		
					教育実践を科学する―データサイエンスでみる高知県の教育課題―			
		学校組織マネジメントの理論と実践						
				変動する社会と生徒指導の理論と実践				変動する社会と生徒指導の理論と実践
			アクティブラーニングの理論と実践					
			ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践					
入学時の力		（知識・理解・技能） 高度な教育実践に必要とされる幅広い教養や教育に関する専門的総合的な知識を理解するために必要となる教育・教育実践に関する知識・技能を備える。 （思考・判断・表現） 学校・地域の教育課題を十分に理解する能力を備える。教育実践や学校運営の実践を理論的に検討する能力を備える。学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を備える。学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現し伝達する能力を備える。 （関心・意欲・態度） 教職への強い使命感を持ち、学校や地域の課題に対して深い関心と明確な課題意識を持っている。地域の教育課題解決に向けて研究・実践する意欲がある。 主体的に課題を探究する態度を備える。課題について多様な考え方を適用する態度を備える。様々な人々と協働して課題を解決する態度を備える。						

専門科目	学校マネジメントコース（選択） 4科目以上	総合実践力科目	必修
共通科目	必修	実習科目	必修

授業実践コース【学部卒院生】のカリキュラムツリー

修了時の力		児童生徒一人一人の特性を把握し、その特性を踏まえた指導・支援を行うことができる。	教育方法に関する専門性を養い、ICT活用も含めて指導方法を工夫しつつ学習目標の達成に向けた授業実践を行うことができる。	学校組織の一員として、自己の役割を果たし、互いに学び合って教育実践の向上につなげていくことができる。	教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めていくことができる。
		児童生徒理解力	学習指導力	チームマネジメント力	セルフマネジメント力
2年	第2学期	総合実践研究（授業実践）			
		授業実践実習Ⅱ（学部卒用）			
		教育実践研究Ⅱ（授業実践）			
			【5教科】授業分析・改善演習		
	第1学期		【5教科】教育マネジメントの理論と実践		
			高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発		
		教育相談の理論と実践			
			ICTを活用したデジタル教育の理論と実践		
1年	第2学期	授業実践実習Ⅰ（学部卒用）			
		教育実践研究Ⅰ（授業実践）			
			【5教科】教材研究・開発の理論と実践		
		就学前からの発達と教育実践			
			高知県の学校教育をめぐる現代的課題		
		学級経営の理論と実践			
				開かれた教育課程の開発と実践	
	第1学期		【5教科】学習指導法の理論と実践		
			授業におけるICT活用の開発的実践		
		教育評価から捉える子どもの心理と理解			
		道徳教育の理論と実践			
			教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－		
				学校組織マネジメントの理論と実践	
		変動する社会と生徒指導の理論と実践			
			アクティブラーニングの理論と実践		
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	
入学時の力		（知識・理解・技能） 学校教育に関する一定の理解と、教育実践に必要とされる幅広い教養や教育に関する総合的な事項を理解するために必要となる知識・技能を備える。 （思考・判断・表現） 学校や地域の教育課題を理解し、その解決を思考する能力を備える。教育実践や教育活動が組織的に運営されることを理論的に検討する能力を備える。学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を備える。学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現し伝達する能力を備える。 （関心・意欲・態度） 教職への強い情熱を持ち、複雑化・多様化する教育課題に対して深い関心を持っている。学級経営や学習指導に関する実践的指導力を発揮しようとし、将来学校のリーダーとしての役割を果たそうとする意欲を持っている。主体的に課題を探究する態度を備える。課題について多様な考え方を適用する態度を備える。様々な人々と協働して課題を解決する態度を備える。			

専門科目	授業実践コース（選択） 4科目以上	総合実践力科目	必修
共通科目	必修	実習科目	必修

授業実践コース【現職教員院生】のカリキュラムツリー

修了時の力		児童生徒一人一人の特性に応じて能力を高めていくことができるよう、指導・支援の工夫を行って組織的に対応することができる。	教育方法に関する専門性を高め、ICT活用も含めて指導方法を工夫・開発しつつ学習目標の達成に向けた授業改善を続けていくことができる。	学校組織の一員として、人材育成に努めながら自己の役割を果たし、互いに学び合って教育実践力の向上につなげていくことができる。	自ら学び続ける意欲をもち、課題意識や探究心をもって研鑽を積み、自己を高めることができる。
		児童生徒理解力	学習指導力	チームマネジメント力	セルフマネジメント力
2年	第2学期	総合実践研究（授業実践）			
		授業実践実習Ⅱ（現職教員用）			
		教育実践研究Ⅱ（授業実践）			
			【5教科】授業分析・改善演習		
	第1学期		【5教科】教育マネジメントの理論と実践		
			高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発		
		教育相談の理論と実践			
			ICTを活用したデジタル教育の理論と実践		
1年	第2学期	授業実践実習Ⅰ（現職教員用）			
		教育実践研究Ⅰ（授業実践）			
			【5教科】教材研究・開発の理論と実践		
		就学前からの発達と教育実践			
			高知県の学校教育をめぐる現代的課題		
		学級経営の理論と実践			
				開かれた教育課程の開発と実践	
	第1学期		【5教科】学習指導法の理論と実践		
			授業におけるICT活用の開発的実践		
		教育評価から捉える子どもの心理と理解			
		道徳教育の理論と実践			
			教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－		
				学校組織マネジメントの理論と実践	
		変動する社会と生徒指導の理論と実践			
			アクティブラーニングの理論と実践		
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	
入学時の力		（知識・理解・技能） 高度な教育実践に必要とされる幅広い教養や教育に関する専門的総合的な知識を理解するために必要となる教育・教育実践に関する知識・技能を備える。 （思考・判断・表現） 学校・地域の教育課題を十分に理解する能力を備える。教育実践や学校運営の実践を理論的に検討する能力を備える。学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を備える。学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現し伝達する能力を備える。 （関心・意欲・態度） 教職への強い使命感を持ち、学校や地域の課題に対して深い関心と明確な課題意識を持っている。地域の教育課題解決に向けて研究・実践する意欲がある。主体的に課題を探究する態度を備える。課題について多様な考え方を適用する態度を備える。様々な人々と協働して課題を解決する態度を備える。			

専門科目	**授業実践コース（選択） 4科目以上**	**総合実践力科目**	**必修**
共通科目	**必修**	**実習科目**	**必修**

特別支援教育コース【学部卒院生】のカリキュラムツリー

修了時の力		児童生徒一人一人の特性や障害の状況を把握し、その特性を踏まえた指導・支援を行うことができる。	特別支援教育に関する専門性を養い、ICT活用も含めて指導方法を工夫しつつ学習目標の達成に向けた授業実践を行うことができる。	学校組織の一員として、自己の役割を果たし、互いに学び合って特別支援教育の向上につなげていくことができる。	教員を志す者としての自覚を持ち、自己の成長に努めていくことができる。
		児童生徒理解力	学習指導力	チームマネジメント力	セルフマネジメント力
2年	第2学期	総合実践研究（特別支援教育）			
		特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）			
		教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）			
			知的障害指導の理論と実践		
	第1学期	病弱評価の基礎と実際			
			高知県の特別支援教育の実態把握と分析		
		教育相談の理論と実践			
			ICTを活用したデジタル教育の理論と実践		
1年	第2学期	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）			
		教育実践研究Ⅰ（教育実践）			
			注意欠如多動症指導の理論と実践		
			限局性学習症指導の理論と実践		
				特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	
			高知県の学校教育をめぐる現代的課題		
		学級経営の理論と実践			
				開かれた教育課程の開発と実践	
	第1学期	肢体不自由評価の基礎と実際			
		注意欠如多動症評価の基礎と実際			
		限局性学習症評価の基礎と実際			
			教育実践を科学する―データサイエンスでみる高知県の教育課題―		
				学校組織マネジメントの理論と実践	
		変動する社会と生徒指導の理論と実践			
			アクティブラーニングの理論と実践		
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	
入学時の力		（知識・理解・技能） 学校教育に関する一定の理解と、教育実践に必要とされる幅広い教養や教育に関する総合的な事項を理解するために必要となる知識・技能を備える。 （思考・判断・表現） 学校や地域の教育課題を理解し、その解決を思考する能力を備える。教育実践や教育活動が組織的に運営されることを理論的に検討する能力を備える。学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を備える。学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現し伝達する能力を備える。 （関心・意欲・態度） 教職への強い情熱を持ち、複雑化・多様化する教育課題に対して深い関心を持っている。学級経営や学習指導に関する実践的指導力を発揮しようとし、将来学校のリーダーとしての役割を果たそうとする意欲を持っている。主体的に課題を探究する態度を備える。課題について多様な考え方を適用する態度を備える。様々な人々と協働して課題を解決する態度を備える。			

専門科目	**特別支援教育コース（選択） 4科目以上**	**総合実践力科目**	**必修**
共通科目	**必修**	**実習科目**	**必修**

特別支援教育コース【現職教員院生】のカリキュラムツリー

修了時の力		児童生徒一人一人の特性や障害の状況に応じて能力を高めていくことができるよう、指導・支援の工夫を行って組織的に対応することができる。	特別支援教育に関する専門性を高め、ICT活用も含めて指導方法を工夫・開発しつつ学習目標の達成に向けた授業改善を続けていくことができる。	学校組織の一員として、人材育成に努めながら自己の役割を果たし、互いに学び合って特別支援教育に関する実践力の向上につなげていくことができる。	自ら学び続ける意欲をもち、課題意識や探究心をもって研鑽を積み、自己を高めることができる。
		児童生徒理解力	学習指導力	チームマネジメント力	セルフマネジメント力
2年	第2学期	総合実践研究（特別支援教育）			
		特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）			
		教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）			
			知的障害指導の理論と実践		
	第1学期	病弱評価の基礎と実際			
			高知県の特別支援教育の実態把握と分析		
		教育相談の理論と実践			
			ICTを活用したデジタル教育の理論と実践		
1年	第2学期	特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）			
		教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）			
			注意欠如多動症指導の理論と実践		
			限局性学習症指導の理論と実践		
				特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	
			高知県の学校教育をめぐる現代的課題		
		学級経営の理論と実践			
				開かれた教育課程の開発と実践	
	第1学期	肢体不自由評価の基礎と実際			
		注意欠如多動症評価の基礎と実際			
		限局性学習症評価の基礎と実際			
			教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－		
				学校組織マネジメントの理論と実践	
		変動する社会と生徒指導の理論と実践			
			アクティブラーニングの理論と実践		
		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践		ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	
入学時の力		（知識・理解・技能） 高度な教育実践に必要とされる幅広い教養や教育に関する専門的総合的な知識を理解するために必要となる教育・教育実践に関する知識・技能を備える。 （思考・判断・表現） 学校・地域の教育課題を十分に理解する能力を備える。教育実践や学校運営の実践を理論的に検討する能力を備える。学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を備える。学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現し伝達する能力を備える。 （関心・意欲・態度） 教職への強い使命感を持ち、学校や地域の課題に対して深い関心と明確な課題意識を持っている。地域の教育課題解決に向けて研究・実践する意欲がある。主体的に課題を探究する態度を備える。課題について多様な考え方を適用する態度を備える。様々な人々と協働して課題を解決する態度を備える。			

専門科目	**特別支援教育コース（選択） 4科目以上**	**総合実践力科目**	**必修**
共通科目	**必修**	**実習科目**	**必修**

Ⅶ.教職実践高度化専攻授業時間割表

時間割【1年次配当】

1学期	月	火	水	木	金
1	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践		教育評価から捉える子どもの心理と理解	アクティブラーニングの理論と実践	
2	学校組織マネジメントの理論と実践		教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－（※1）	学級経営の開発的実践 肢体不自由評価の基礎と実際	
3	学校管理職の役割と実践 道徳教育の理論と実践			授業におけるICT活用の開発的実践	
4	5教科 学習指導法の理論と実践			変動する社会と生徒指導の理論と実践	
5	注意欠如多動症評価の基礎と実際			限局性学習症評価の基礎と実際	
集中	学校組織開発の理論と実践				

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築			開かれた教育課程の開発と実践	
2	高知県の学校教育をめぐる現代的課題（※2）			学級経営の理論と実践	
3	保幼小中高の連携によるキャリア発達 限局性学習症指導の理論と実践			就学前からの発達と教育実践	
4	5教科 教材研究・開発の理論と実践			学校に求められるリスクマネジメント	
5	注意欠如多動症指導の理論と実践				
集中	学校組織開発のための学校評価				

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

時間割【2年次配当】

1学期	月	火	水	木	金
1				高知県の特別支援教育の実態把握と分析	
2	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践			高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発	
3				教育相談の理論と実践	
4	組織的な生徒指導と人権教育			高知県の地域教育リソース開発	
5	5教科 教育マネジメントの理論と実践				
集中	病弱評価の基礎と実際				

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5	5教科 授業分析・改善演習				
集中	学校組織開発演習				
	知的障害指導の理論と実践				
	総合実践研究（学校マネジメント・授業実践・特別支援教育）				

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

コース別時間割【学校マネジメントコース　1年】

1学期	月	火	水	木	金
1	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践			アクティブラーニングの理論と実践	
2	学校組織マネジメントの理論と実践		教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－（※1）	学級経営の開発的実践	
3	学校管理職の役割と実践				
4				変動する社会と生徒指導の理論と実践	
5					
集中	学校組織開発の理論と実践				

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1				開かれた教育課程の開発と実践	
2	高知県の学校教育をめぐる現代的課題（※2）			学級経営の理論と実践	
3	保幼小中高の連携によるキャリア発達				
4				学校に求められるリスクマネジメント	
5					
集中	学校組織開発のための学校評価				

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

コース別時間割【学校マネジメントコース　2年】

1学期	月	火	水	木	金
1					
2	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践				
3				教育相談の理論と実践	
4	組織的な生徒指導と人権教育			高知県の地域教育リソース開発	
5					
集中					

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
集中	学校組織開発演習				
	総合実践研究				

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

コース別時間割【授業実践コース　1年】

1学期	月	火	水	木	金
1	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践		教育評価から捉える子どもの心理と理解	アクティブラーニングの理論と実践	
2	学校組織マネジメントの理論と実践		教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－（※1）		
3	道徳教育の理論と実践			授業におけるICT活用の開発的実践	
4	5教科 学習指導法の理論と実践			変動する社会と生徒指導の理論と実践	
5					
集中					

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1				開かれた教育課程の開発と実践	
2	高知県の学校教育をめぐる現代的課題（※2）			学級経営の理論と実践	
3				就学前からの発達と教育実践	
4	5教科 教材研究・開発の理論と実践				
5					
集中					

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

コース別時間割【授業実践コース　2年】

1学期	月	火	水	木	金
1					
2	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践			高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発	
3				教育相談の理論と実践	
4					
5	5教科 教育マネジメントの理論と実践				
集中					

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5	5教科 授業分析・改善演習				
集中	総合実践研究				

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

コース別時間割【特別支援教育コース　1年】

1学期	月	火	水	木	金
1	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践			アクティブラーニングの理論と実践	
2	学校組織マネジメントの理論と実践		教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－(※1)	肢体不自由評価の基礎と実際	
3					
4				変動する社会と生徒指導の理論と実践	
5	注意欠如多動症評価の基礎と実際			限局性学習症評価の基礎と実際	
集中					

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築			開かれた教育課程の開発と実践	
2	高知県の学校教育をめぐる現代的課題(※2)			学級経営の理論と実践	
3	限局性学習症指導の理論と実践				
4					
5	注意欠如多動症指導の理論と実践				
集中					

※1・2は、1年次に必修。
原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅰ、教育実践研究Ⅰを行う。

コース別時間割【特別支援教育コース　2年】

1学期	月	火	水	木	金
1				高知県の特別支援教育の実態把握と分析	
2	ICTを活用したデジタル教育の理論と実践				
3				教育相談の理論と実践	
4					
5					
集中	病弱評価の基礎と実際				

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

2学期	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
集中	知的障害指導の理論と実践				
	総合実践研究				

原則として火曜日、水曜日、金曜日のいずれかのうちで実習Ⅱ、教育実践研究Ⅱを行う。

Ⅷ. 教育実践研究及び総合実践研究実施要項

高知大学教職大学院教育実践研究及び総合実践研究実施要項

令和４年１月 14 日制定
教職実践高度化専攻会議

（目的）

第１条　教育実践研究及び総合実践研究の目的は、学部卒、現職教員の別に次の各号に掲げるとおりとする。

（１）学部卒

学校運営や学級経営、学習指導、特別支援教育の問題に関し、理論と実践の融合を図りながら、各自の研究課題に応じ、専門的知識を生かして教育課題を解決するための実践省察力を養う。

（２）現職教員

学校運営や学級経営、学習指導、特別支援教育の問題に関し、理論と実践の融合を図りながら、各自の研究課題に応じて学びを深め、高度な専門的知識を生かして教育課題を解決するための実践省察力を養う。

（概要）

第２条　共通科目・専門科目で修得した理論的な学びと、実習科目における実践的な学びを融合させるための省察活動を行う科目として、各コース別に「教育実践研究Ⅰ（１年次通年）」、「教育実践研究Ⅱ（２年次通年）」を段階的に配置するとともに、共通科目・専門科目・実習科目と「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」における学びを総合的に捉え、学修を総括する「総合実践研究（２年次２学期）」を配置する。

２　教育実践研究では、学生の研究課題を中心に、課題設定・実践の構想・省察（「教育実践研究Ⅰ」）、実践の高度化・省察、実践研究の総括（「教育実践研究Ⅱ」）を段階的に展開する。

３　総合実践研究では、理論面・実践面の両面から研究課題について分析・検証し、学修を総括する。

４　教育実践研究においては、実習と省察の一定のまとまりの段階ごとに（年２回）、全ての学年の学生、授業担当者、また、その他教育関係者が一堂に会して多様な視点からディスカッションを行う、合同ゼミとして「土佐の皿鉢ゼミ」を行う。「土佐の皿鉢ゼミ」は、高知県の教育課題を多様な視点や独創的な視点から捉え、実践を深く掘り下げて探究し、他者からの多様な意見も生かして双方向で学びを深め、主体的に教育実践研究を行っていくことを目的とする。

なお、「土佐の皿鉢ゼミ」の開催要項は、別途定めることとする。

（指導体制）

第３条　学生は、教育実践研究及び総合実践研究の主指導教員及び副指導教員（以下「指導教員」という。）となる教員の承認を得て、所定の「指導教員届」を入学年度に教職大学院係に提出する。指導教員は、教育実践研究及び総合実践研究の主たる指導に当たり、実践研究を深化させていくうえで必要となる助言・指導を行う。

２　「土佐の皿鉢ゼミ」では、上記の指導教員をはじめ全ての教員がその専門性を生かして指導を行う。また、高知県教育委員会関係者や実習先の指導者（校長・実習担当者等）等からも、高知県の教育政策的視点や学校現場での課題解決に向けた視点等を踏まえて指導・助言を受けることもできる体制をとる。

３　特別の事情により指導教員を変更する場合は、所定の「指導教員変更届」を教職大学院係に提出する。

（計画）

第４条　学生は、「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」のそれぞれの計画について、指導教員の指導のもと、所定の「教育実践研究計画書」を作成し、教職大学院係に提出する。

（教育実践研究の記録）

第５条　学生は、「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」の終了後、それぞれの所定の「省察記録」をまとめ、試験期間終了日までに主指導教員に提出する。

（総合実践研究の報告）

第６条　学生は、２年間の教育実践研究及び実習について、理論面・実践面の両面から分析・検証し、修了報告に位置づくものとして所定の「研究成果報告書」をまとめ、試験期間終了日までに主指導教員に提出する。

（教育実践研究の評価及び単位認定）

第７条　教育実践研究の終了にあたって、次の各号に示す評価資料を基に、到達目標に則して、指導教員が成績評価を行い、毎年度指定する提出期限までに成績とともに合格者の「省察記録」を教職大学院係に提出する。

（１）省察記録

（２）省察活動における討議等の状況

（３）「土佐の皿鉢ゼミ」の発表資料

（４）「土佐の皿鉢ゼミ」における発表・討議の状況

（総合実践研究の評価及び単位認定）

第８条　総合実践研究の終了にあたって、「研究成果報告書」を基に、到達目標に則して、指導教員が成績評価を行い、毎年度指定する提出期限までに成績とともに合格者の「研究成果報告書」を教職大学院係に提出する。

（その他）

第９条　この要項に定めるものの他、必要な事項は、学務委員会及び専攻会議等において協議するなどして決定する。協議は、必要に応じて行うことができる。

２　この要項に定める各種様式の毎年度の提出期限等については、別途示す。

附　則

１　この要項は、令和４年４月１日から施行する。

２　高知大学教職大学院教育実践研究及び総合実践研究実施要項（平成 30 年４月１日教職実践高度化専攻会議制定、以下「旧要項」という。）は廃止する。ただし、令和４年３月 31 日に教職実践高度化専攻に在学する者が教職実践高度化専攻に在学しなくなる日までの間は、旧要項は、なお効力を有するものとする。

教職実践高度化専攻　指導教員届

年　　月　　日

高知大学大学院総合人間自然科学研究科長　殿

指導教員として、下記教員の承認を受けたので、お届けします。

コ ー ス＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記学生の指導教員となることを承認する。

主指導教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副指導教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副指導教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

教職実践高度化専攻　（　主　・　副　）指導教員変更届

年　　月　　日

高知大学大学院総合人間自然科学研究科長　殿

コ ー ス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記のとおり指導教員を変更いたしたく、よろしくお願いします。

記

変更理由 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記学生の指導教員となることを承認する。

（　主　・　副　）指導教員名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

教職実践高度化専攻【教育実践研究（１年次）Ⅰ・（２年次）Ⅱ】計画書

（1年次か2年次のいずれかを□で囲む）

コース	フリガナ 氏名		学籍 番号	
主指導教員				
研究課題				

１　研究課題設定の理由

２　研究のスケジュール

３　研究の内容・方法

※　実習については､別途実習申請書･計画書に記載するので実習の詳細までは記載しなくてよい。
※　枚数は、２枚とする。項目見出しは、適宜修正することも可。

教職実践高度化専攻【教育実践研究Ⅰ・Ⅱ】省察記録

（Ⅰ・Ⅱのいずれかを□で囲む）

コース	フリガナ 氏名		学籍 番号	
研究課題				

１　省察の経過

２　成果

※　実習については、別途実習記録に記載するので、実習の詳細までは記載しなくてよい。
※　枚数は、４枚とする。項目見出しは、適宜修正することも可。

教職実践高度化専攻　研究成果報告書

コース	フリガナ 氏名		学籍 番号	
研究課題				
キーワード	３～５語記載（重要な順に）			
研究の概要 （200～400 字）				

※　枚数は、８枚とする。適宜項目を設けて記載する。引用文献等は、最終ページに記載する。
※　主指導教員への提出にあたっては、補足資料等を添付することも可。

教育実践研究計画書、教育実践研究省察記録、研究成果報告書
に関する留意事項

※　教育実践研究は、学生の研究課題を中心に、共通科目・専門科目における理論的な学びと実習科目における実践的な学びを統合していくために、課題設定・実践の構想・省察（「教育実践研究Ⅰ（１年次通年）」）、実践の高度化・省察、実践研究の総括（「教育実践研究Ⅱ（２年次通年）」）と段階的に展開するものであり、これについての計画や記録等をまとめる。
※　総合実践研究は、理論面・実践面の両面から研究課題について分析・検証するものであり、学修を総括して、研究成果報告書をまとめる。

【注意事項】
・　第三者から、実習先の児童生徒等の個人が特定されるような情報は記載しない。個人情報の取り扱いに配慮し、記載に当たっての懸念があれば指導教員に相談する。

【様式等】
・　原稿サイズは、Ａ４版・横書きとし、１ページ 44 字×42 行、余白は上下各 25 ミリ、左右各 20 ミリを標準とする。

・　項目見出し以外の本文で使用する文字は、10.5 ポイント、ＭＳ明朝を標準とする。

・　複製印刷の場合、白黒印刷となることを考慮して作成する。

・　各種様式を提出する際には、様式下部の※注釈の部分を削除して提出する。

【枚数等】

教育実践研究･総合実践研究	枚数	備考
教育実践研究計画書	１年次、２年次ごと･･･各２枚	
教育実践研究省察記録	Ⅰ･･･４枚 Ⅱ･･･４枚	
研究成果報告書	８枚	※引用文献等は、最終ページに記載 ※提出の際、補足資料等の添付可。

Ⅸ. 関係規則等

高知大学大学院総合人間自然科学研究科
専門職学位課程教職実践高度化専攻規則

（令和４年３月４日
規　則　第 67 号）

最終改正　令和７年２月 11 日規則第 61 号

（趣旨）

第１条　高知大学大学院総合人間自然科学研究科専門職学位課程教職実践高度化専攻（以下「専攻」という。）に関する事項は、高知大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（専攻の目的）

第２条　専攻は、高知県の教育を新しく創造するとともに、複雑さを増していく現代社会の中で子どもたちが自律的に未来を切り開いていけるための教育を構築・提供できる高度な専門性と実践力を備えた教員を育成することを目的とする。

（コース）

第３条　専攻に、学校マネジメントコース、授業実践コース及び特別支援教育コースを置く。

（教育方法）

第４条　専攻の教育は、授業科目の授業、教育実践研究及び実習の指導（以下「実践研究指導」という。）等によって行う。

２　専攻において、教育上有益と認めたときに限り、他の大学院又は本学以外の研究機関と連携して授業又は実践研究指導を行うことができる。

（指導教員）

第５条　専攻の教育のため、主指導教員及び副指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

２　指導教員は、専攻を担当する教授、准教授、講師又は助教をもって充てる。

（授業科目及び単位数）

第６条　授業科目及び単位数は、別表第１から別表第４までのとおりとする。

（単位の計算方法）

第６条の２　科目に対する単位数は、次の基準によって計算する。

(1)　講義及び演習は 15 時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実習は、40 時間の授業をもって１単位とする。

(3)　一の授業科目について、講義、演習又は実習のうち２以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する時間の授業をもって１

単位とする。

（履修科目及び単位数）

第７条　各コースにおいて履修すべき授業科目は、指導教員の指導を受けて定めるものとし、その修得すべき単位数は、共通科目 20 単位、専門科目８単位、総合実践力科目８単位及び実習科目 10 単位の計 46 単位とする。

２　学生は、所属するコース以外のコース及び他の専攻の授業科目を履修することができる。

３　本専攻が特に必要と認めたときは、学則第 65 条の規定に基づき、他の大学院又は外国の大学院の授業科目を履修することができる。

（授業科目の履修登録の上限）

第８条　学則第 64 条の３に規定する学生が履修登録できる授業科目の単位数の上限は、１学期間に 22 単位とする。ただし、複数学期にわたって開講される授業科目の単位数の取扱いは、当該科目の単位数を開講される学期数で除した数とする。

（履修科目の届出）

第９条　学生は、あらかじめ、履修しようとする授業科目を所定の期間内に授業担当教員に届け出て承認を受けなければならない。

（単位の認定）

第 10 条　単位の認定は、授業担当教員が行う。

（成績の評価）

第 11 条　履修科目の成績は、秀、優、良、可及び不可の評語で表し、可以上を合格とする。

（修了要件）

第 12 条　専攻の修了要件は、２年以上在学し、第７条第１項に定める単位を修得することとする。

（教育職員免許状）

第 13 条　専攻において教育職員免許状を取得しようとする者は、別表第５から別表第９までに定める授業科目の中から、取得しようとする教育職員免許状の学校種別に応じて、24 単位以上を修得しなければならない。

（雑則）

第 14 条　この規則に定めるもののほか、専攻に関し必要な事項は、専攻会議が定める。

附　則

この規則は、令和４年４月１日から施行する。

附　則（令和５年３月９日規則第 86 号）

この規則は、令和５年４月１日から施行する。

附　則（令和７年２月 11 日規則第 61 号）

この規則は、令和７年４月１日から施行する。

別表第１（第６条関係）　共通科目

科目領域	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教育課程の編成・実施に関する領域	開かれた教育課程の開発と実践	2		
	ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	2		
教科等の実践的な指導方法に関する領域	アクティブラーニングの理論と実践	2		
	ＩＣＴを活用したデジタル教育の理論と実践	2		
生徒指導及び教育相談に関する領域	変動する社会と生徒指導の理論と実践	2		
	教育相談の理論と実践	2		
学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織マネジメントの理論と実践	2		
	学級経営の理論と実践	2		
学校教育と教員の在り方に関する領域	高知県の学校教育をめぐる現代的課題	2		
	教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－	2		
計		20		

別表第２（第６条関係）　専門科目

コース	授業科目	単位数	
		必修	選択
学校マネジメントコース	学校管理職の役割と実践		2
	学校組織開発の理論と実践		2
	保幼小中高の連携によるキャリア発達		2
	学校に求められるリスクマネジメント		2
	学校組織開発のための学校評価		2
	学級経営の開発的実践		2
	組織的な生徒指導と人権教育		2
	高知県の地域教育リソース開発		2
	学校組織開発演習		2
	計		8
授業実践コース	道徳教育の理論と実践		2
	就学前からの発達と教育実践		2
	教育評価から捉える子どもの心理と理解		2
	授業におけるＩＣＴ活用の開発的実践		2
	高知県の教育実践の実態把握と教育方法の開発		2
	国語科学習指導法の理論と実践		2
	国語科教材研究・開発の理論と実践		2
	国語科教育マネジメントの理論と実践		2
	国語科授業分析・改善演習		2
	社会科学習指導法の理論と実践		2
	社会科教材研究・開発の理論と実践		2
	社会科教育マネジメントの理論と実践		2
	社会科授業分析・改善演習		2
	算数・数学科の学習指導の理論と実践		2
	算数・数学科の教材研究の理論と実践		2
	算数･数学科の教材開発と授業デザインの理論と実践		2
	算数・数学科の授業研究と授業改善演習		2
	理科学習指導法の理論と実践		2
	理科教材研究・開発の理論と実践		2
	理科教育マネジメントの理論と実践		2
	理科授業分析・改善演習		2
	英語科学習指導法の理論と実践		2
	英語科教材研究・開発の理論と実践		2
	英語科教育マネジメントの理論と実践		2
	英語科授業分析・改善演習		2
	計		8

特別支援教育 コース	特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築		2
	限局性学習症評価の基礎と実際		2
	限局性学習症指導の理論と実践		2
	注意欠如多動症評価の基礎と実際		2
	注意欠如多動症指導の理論と実践		2
	知的障害指導の理論と実践		2
	肢体不自由評価の基礎と実際		2
	病弱評価の基礎と実際		2
	高知県の特別支援教育の実態把握と分析		2
	計		8

※　所属するコースの科目から、８単位以上を修得すること。

別表第３（第６条関係）　総合実践力科目

コース	授業科目	単位数	
		必修	選択
学校マネジメントコース	教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	2	
	教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	4	
	総合実践研究（学校マネジメント）	2	
	計	8	
授業実践コース	教育実践研究Ⅰ（授業実践）	2	
	教育実践研究Ⅱ（授業実践）	4	
	総合実践研究（授業実践）	2	
	計	8	
特別支援教育コース	教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	2	
	教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	4	
	総合実践研究（特別支援教育）	2	
	計	8	

※　所属するコースの科目の単位を修得すること。

別表第４（第６条関係）　実習科目

コース	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
学校マネジメントコース	学校マネジメント実習Ⅰ（学部卒用）		4	いずれかを選択必修とする。
	学校マネジメント実習Ⅱ（学部卒用）		6	
	学校マネジメント実習Ⅰ（現職教員用）		4	
	学校マネジメント実習Ⅱ（現職教員用）		6	
	計		10	
授業実践コース	授業実践実習Ⅰ（学部卒用）		4	いずれかを選択必修とする。
	授業実践実習Ⅱ（学部卒用）		6	
	授業実践実習Ⅰ（現職教員用）		4	
	授業実践実習Ⅱ（現職教員用）		6	
	計		10	
特別支援教育コース	特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）		4	いずれかを選択必修とする。
	特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）		6	
	特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）		4	
	特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）		6	
	計		10	

※　所属するコースの科目の単位を修得すること。その場合において、学部卒学生は学部卒用科目２科目 10 単位を、現職教員学生は現職教員用科目２科目 10 単位を選択すること。

別表第５（第 13 条関係）　幼稚園教諭専修免許状

授業科目	単位数
開かれた教育課程の開発と実践	2
ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	2
アクティブラーニングの理論と実践	2
ＩＣＴを活用したデジタル教育の理論と実践	2
教育相談の理論と実践	2
学校組織マネジメントの理論と実践	2
学級経営の理論と実践	2
高知県の学校教育をめぐる現代的課題	2
教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	2
学校管理職の役割と実践	2
学校組織開発の理論と実践	2
保幼小中高の連携によるキャリア発達	2
学校に求められるリスクマネジメント	2
学校組織開発のための学校評価	2
学級経営の開発的実践	2
高知県の地域教育リソース開発	2
学校組織開発演習	2
就学前からの発達と教育実践	2
教育評価から捉える子どもの心理と理解	2
授業におけるＩＣＴ活用の開発的実践	2
限局性学習症指導の理論と実践	2
注意欠如多動症指導の理論と実践	2
教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	2
教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	4
教育実践研究Ⅰ（授業実践）	2
教育実践研究Ⅱ（授業実践）	4

別表第６（第 13 条関係）　小学校教諭専修免許状

授業科目	単位数
開かれた教育課程の開発と実践	2
ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	2
アクティブラーニングの理論と実践	2
ＩＣＴを活用したデジタル教育の理論と実践	2
変動する社会と生徒指導の理論と実践	2
教育相談の理論と実践	2
学校組織マネジメントの理論と実践	2
学級経営の理論と実践	2
高知県の学校教育をめぐる現代的課題	2
教育実践を科学するーデータサイエンスでみる高知県の教育課題ー	2
学校管理職の役割と実践	2
学校組織開発の理論と実践	2
保幼小中高の連携によるキャリア発達	2
学校に求められるリスクマネジメント	2
学校組織開発のための学校評価	2
学級経営の開発的実践	2
組織的な生徒指導と人権教育	2
高知県の地域教育リソース開発	2
学校組織開発演習	2
道徳教育の理論と実践	2
就学前からの発達と教育実践	2
教育評価から捉える子どもの心理と理解	2
授業におけるＩＣＴ活用の開発的実践	2
限局性学習症指導の理論と実践	2
注意欠如多動症指導の理論と実践	2
教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	2
教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	4
教育実践研究Ⅰ（授業実践）	2
教育実践研究Ⅱ（授業実践）	4

別表第７（第 13 条関係）　中学校教諭専修免許状（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・保健・技術・家庭・職業・職業指導・英語・宗教）

授業科目	単位数
開かれた教育課程の開発と実践	2
ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	2
アクティブラーニングの理論と実践	2
ＩＣＴを活用したデジタル教育の理論と実践	2
変動する社会と生徒指導の理論と実践	2
教育相談の理論と実践	2
学校組織マネジメントの理論と実践	2
学級経営の理論と実践	2
高知県の学校教育をめぐる現代的課題	2
教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－	2
学校管理職の役割と実践	2
学校組織開発の理論と実践	2
保幼小中高の連携によるキャリア発達	2
学校に求められるリスクマネジメント	2
学校組織開発のための学校評価	2
学級経営の開発的実践	2
組織的な生徒指導と人権教育	2
高知県の地域教育リソース開発	2
学校組織開発演習	2
道徳教育の理論と実践	2
就学前からの発達と教育実践	2
教育評価から捉える子どもの心理と理解	2
授業におけるＩＣＴ活用の開発的実践	2
限局性学習症指導の理論と実践	2
注意欠如多動症指導の理論と実践	2
教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	2
教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	4
教育実践研究Ⅰ（授業実践）	2
教育実践研究Ⅱ（授業実践）	4

別表第８（第 13 条関係）　高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・工芸・書道・保健体育・保健・看護・家庭・情報・農業・工業・商業・水産・福祉・商船・職業指導・英語・宗教）

授業科目	単位数
開かれた教育課程の開発と実践	2
ユニバーサルデザインに基づく特別の教育課程の開発と実践	2
アクティブラーニングの理論と実践	2
ＩＣＴを活用したデジタル教育の理論と実践	2
変動する社会と生徒指導の理論と実践	2
教育相談の理論と実践	2
学校組織マネジメントの理論と実践	2
学級経営の理論と実践	2
高知県の学校教育をめぐる現代的課題	2
教育実践を科学する－データサイエンスでみる高知県の教育課題－	2
学校管理職の役割と実践	2
学校組織開発の理論と実践	2
保幼小中高の連携によるキャリア発達	2
学校に求められるリスクマネジメント	2
学校組織開発のための学校評価	2
学級経営の開発的実践	2
組織的な生徒指導と人権教育	2
高知県の地域教育リソース開発	2
学校組織開発演習	2
就学前からの発達と教育実践	2
教育評価から捉える子どもの心理と理解	2
授業におけるＩＣＴ活用の開発的実践	2
限局性学習症指導の理論と実践	2
注意欠如多動症指導の理論と実践	2
教育実践研究Ⅰ（学校マネジメント）	2
教育実践研究Ⅱ（学校マネジメント）	4
教育実践研究Ⅰ（授業実践）	2
教育実践研究Ⅱ（授業実践）	4

別表第９（第 13 条関係）

特別支援学校教諭専修免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者領域）

授業科目	単位数
特別支援教育の理論と推進・連携体制の構築	2
限局性学習症評価の基礎と実際	2
注意欠如多動症評価の基礎と実際	2
知的障害指導の理論と実践	2
肢体不自由評価の基礎と実際	2
病弱評価の基礎と実際	2
高知県の特別支援教育の実態把握と分析	2
教育実践研究Ⅰ（特別支援教育）	2
教育実践研究Ⅱ（特別支援教育）	4
総合実践研究（特別支援教育）	2
特別支援教育実習Ⅰ（学部卒用）	4
特別支援教育実習Ⅱ（学部卒用）	6
特別支援教育実習Ⅰ（現職教員用）	4
特別支援教育実習Ⅱ（現職教員用）	6

高知 CST 養成プログラム（初級）について

１．概　要

高知 CST 養成プログラムは、高知大学と高知県教育委員会が連携･協力して開発した、理科の専門的知識・技能を十分に備え、学校･地域の中核となる理科教員（Core Science Teacher）養成のためのカリキュラムで、平成 23 年度より実施しています。

CST は、高知大学と高知県教育委員会で組織された高知 CST 養成・育成事業運営協議会が認定する教員のことで、資格や免許ではありませんが、理科の専門性を持って、理科についての強い指導力・授業力を発揮します。

プログラムは、大学院生が対象の≪初級≫、現職教員が対象の≪中級、上級≫の各コースがあり、本学、県内小・中学校、県内連携教育研究機関などで授業科目（理科授業実習・演習関係等）を開設・実施しています。

初級 CST に認定された者は、高知県の教員採用試験時の加点制度の対象（ただし現状は大学院修了後の教員採用試験から有効）となります。合格後は教員として、自ら優れた教育実践・教材開発を行い、研修会・研究会での補助活動を行うことで、地域の小・中学校教員として、理科の指導力と教育力の向上に努めます。

２．受講対象者・履修期間

受講資格：理工学専攻学生、農林海洋科学専攻学生および教職実践高度化専攻学生のうち、小学校、中学校又は高等学校の教員免許状（理科）取得者（取得見込者も可）若しくは大学院入学後に長期履修制度等を使って小学校、中学校又は高等学校の教員免許状（理科）を取得する者。

履修期間：2 年間

３．初級 CST 認定要件

Ⅰ）初級Ａコース（理工学専攻、農林海洋科学専攻）

以下のすべてを満たすことで初級 CST として認定されます。

（1）高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程を修了すること。
（2）小学校、中学校又は高等学校の教員免許状（理科）を取得すること。
（3）別に定める下記の高知 CST 養成プログラムを修了すること。

科　目　区　分	時間数	備　考
実践・演習コアカリキュラム	１４７	共通必修
理科専門コアカリキュラム	２４	選択
環境教育コアカリキュラム	２４	
計	１９５	

Ⅱ）初級Ｂコース（教職実践高度化専攻）

以下のすべてを満たすことで初級 CST として認定されます。

（1）高知大学大学院総合人間自然科学研究科専門職学位課程を修了すること。
（2）小学校、中学校又は高等学校の教員免許状（理科）を取得すること。
（3）別に定める下記の高知 CST 養成プログラムを修了すること。

科　目　区　分	時間数	備　考
実践・演習コアカリキュラム	１２３	共通必修
理科専門コアカリキュラム	２４	選択
環境教育コアカリキュラム	２４	
計	１７１	

４．申請手続

提出期限までに、高知 CST 養成・育成事業事務局（朝倉キャンパス学生サービスセンター（学務課）共通教育 1 号館 2 階）の窓口へ必要書類を提出してください。

※詳しくは高知 CST 養成プログラム履修案内を参照、又は高知 CST 養成・育成事業事務局に確認してください。（電話：088-844-8369）